

SYLLABUS

2019 年度 講義要項

和 歌 山 信 愛 大 学

和歌山信愛大学 教育学部 子ども教育学科 2019年度 シラバス 目次

科目区分		授業科目の名称	教員名	実務家教員*	単位数	配当年次	授業形態	卒業に必要な科目・単位	頁
共通基礎科目	教養科目の信基愛基礎教育	信愛教育Ⅰ	星野正道	*	1	1 通年	演習	●	1-2
		いのちと倫理	星野正道	*	2	1 後期	講義	●	3
		ボランティア実習	森崎陽子 江口怜		1	1 通年	実習	●	4
	教育者の教養	日本国憲法	奥野庸己	*	2	1 前期	講義	●	5
		ヘルスプロモーション科学	松本健治		2	1 前期	講義	○	6
		情報処理論	大山輝光		2	1 前期	講義	○	7
		国際教育論	相川真佐夫	*	2	1 後期	講義	○	8
		子どもと遊び	大橋眞由美		2	1 後期	講義	○	9
	リテラシー	日本語表現	小林康宏	*	1	1 前期	演習	●	10
		英語コミュニケーションⅠ	辻伸幸	*	1	1 前期	演習	●	11
		英語コミュニケーションⅡ	辻伸幸	*	1	1 後期	演習	●	12
		情報処理演習Ⅰ	大山輝光		1	1 後期	演習	●	13
	体育保健	スポーツと健康Ⅰ（講義）	森崎陽子		1	1 前期	講義	●	14
		スポーツと健康Ⅱ（実技）	森崎陽子		1	1 通年	実技	●	15-16
	教師塾	教職キャリアデザイン	森崎陽子 辻伸幸	*	1	1 通年(隔週)	講義	●	17
		教職基礎ゼミナール	大山 千森 森崎 村上 森下 山本 江口	*	2	1 通年	演習	●	18-19
		教職基礎実習	辻伸幸 小田真弓	*	1	1 通年	実習	●	20
地域連携科目	世界のかのやまと	世界の中の和歌山	福田光男	*	2	1 前期	講義	●	21
		歴史・文化と風土	小山譽城	*	2	1 後期	講義	○	22
		郷土の自然	柳瀬充男	*	2	1 後期	講義	○	23
	科目探求地	地域連携フィールド学習	千森督子		1	1 通年	実習	△	24
専門教育科目	理念・理論	教職論	木本毅	*	2	1 前期	講義	●	25
		教育原理	市川純夫 北後佐知子		2	1 前期	講義	●	26-27
		保育原理	森下順子	*	2	1 前期	講義	●	28
		教育制度論	木本毅	*	2	1 後期	講義	●	29
		児童家庭福祉	西原弘	*	2	1 後期	講義	●	30
		教育方法論	岸田正幸	*	2	1 後期	講義	●	31
		教育課程総論	岸田正幸	*	2	1 前期	講義	●	32
		保育課程論	花岡隆行		2	1 後期	講義	●	33
		保育内容総論	山下悦子	*	1	1 前期	演習	●	34-35
		図画工作Ⅰ	戸潤幸夫	*	1	1 前期	演習	○	36
		図画工作Ⅱ	戸潤幸夫	*	1	1 後期	演習	○	37
		音楽Ⅰ	溝口希久生 桐山由香	*	1	1 前期	演習	○	38
		音楽Ⅱ	溝口希久生 桐山由香	*	1	1 後期	演習	○	39
		生活Ⅰ	秋吉博之	*	1	1 前期	演習	○	40
		生活Ⅱ	秋吉博之	*	1	1 後期	演習	○	41
		子どもと環境	秋吉博之	*	1	1 後期	演習	○	42
		子どもの言葉	小林康宏	*	1	1 後期	演習	○	43
		子どもの表現Ⅰ	戸潤幸夫 桐山由香		1	1 後期	演習	○	44
		鍵盤演奏入門	溝口希久生	*	1	1 前期	演習	○	45
	理解子ども	発達心理学	桑原義登	*	2	1 前期	講義	●	46
		教育心理学	村上凡子	*	1	1 後期	演習	●	47

● 必修
○ 選択必修
△ 選択

共通基礎科目

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	通年	信愛教育 I	星野正道	1	必修	演習
授業の概要		カトリック精神を基盤とした豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指す科目である。旧・新約聖書の内容を読み解くと共に、キリスト教のミサに参加する中で、本学の建学の精神を体得し、キリスト教の愛と奉仕の精神や一人ひとりを大切にするところを養う。				
授業の目標		信愛教育がバックアップする愛と奉仕の道。カトリック精神の基盤である豊かな人間性と支援型リーダーシップの涵養を目指すことによって本学の建学の精神を理解し体得する。自分自身の考えたことを他者と共有するためのプレゼンテーション力と他者の心に心を傾ける傾聴力を養いその能力を開発することをめざす。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 50 分		
1	信愛教育、キリスト教、およびこの授業の概要。平常心を保つための方法。			8	プレゼンテーションと傾聴・グループ4/関連の新約聖書ルカ 21:1~4	
2	信愛の歴史。ショファイユの幼きイエズス修道会の精神と日本における貢献			9	プレゼンテーションと傾聴・グループ5/関連の新約聖書マタイ 20:20~28	
3	聖書について知ろう。ミサを知ろう。聖書の人間観 旧約聖書 創世記1章、2章			10	プレゼンテーションと傾聴・グループ6/関連の新約聖書 Iコリント 12:12~26	
4	プレゼンテーションと傾聴の大切さ。現場で求められることへの応用。			11	人間人格の絶対的尊厳について・旧約聖書イザヤ書52章、53章。現場で求められることへの応用。	
5	プレゼンテーションと傾聴・グループ1/関連の新約聖書ルカ 10:25~37			12	平和について:聖フランシスコの平和を求める祈り・旧約聖書サムエル記(上)8章。現場で求められることへの応用。	
6	プレゼンテーションと傾聴・グループ2/関連の新約聖書マタイ 6:25~24			13	映像を通してキリスト教に触れる。:聖フランシスコ	
7	プレゼンテーションと傾聴・グループ3/関連の新約聖書ルカ 15:11~32			14	前期の自分を振り返ってみよう。:集団討論	

回	授業のテーマ及び内容	各回 50 分			
15	マザーテレサの愛と奉仕の心。現場で求められることへの応用。	22	カトリック教会は他の宗教をどのように考えているか。		
16	マザーテレサ：映像による理解：集団討論	23	日本文化とキリスト教		
17	あなたは大切な存在です。：集団討論。現場で求められることへの応用。	24	クリスマスの意味：新約聖書ルカ 1:26～37, マタイ 1:18～25 映像による理解		
18	あなたは赦されています。：集団討論。現場で求められることへの応用。	25	クリスマスの意味：新約聖書ルカ 2:1～21, マタイ 2:1～23 映像による理解		
19	あなたには価値があります。：集団討論。現場で求められることへの応用。	26	イエスの十字架の意味		
20	心の識別入門	27	イエスの復活の意味		
21	自分を見つめるためのヒント：新約聖書マタイ 6:16～24	28	1年間の自分を振り返ってみよう：集団討論		
成績評価方法		(1) プレゼンテーションと傾聴への取り組み 50% (2) リアクションペーパー 10% (3) 定期試験 40%			
教科書	『聖書～新共同訳～〈N I 44 D C〉』日本聖書協会(1996年12月)				
参考書	『いのちに仕える「私のイエス」』オリエンス宗教研究所 星野正道著				
授業外の学習方法	日常生活や社会の動きを授業を通して考え、修得したまなざしでながめ、分析すること。現代の子どもたちの人生・生活・いのちにかかわるものとして問題意識や提案を主体的にもてるようになる。のために新聞やその他あらゆるメディアを通して現代社会についての情報を得るようにすること。(週30分程度) 試験対策の時間も確保すること。				
免許・資格	保育士資格選択必修科目				
実務経験と教授内容	担当教員自身の幼稚園・小学校で園児・児童に教育にあたった経験と保護者・父母・幼稚園教諭への研修をもとに教育現場や保護者からの具体的要望や問題についても講義し対応への模擬体験を行う。 担当教員がカトリック教会の指導者としてかかわっている信愛の創立母体・ショファイユの幼きイエズス修道会会員の日本社会への貢献方法と、カトリック教会を通して出会う多くの人々の現実生活を紹介することによって学生たちの現代社会に取り組む姿勢を養う。				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	いのちと倫理	星野正道	2	必修	講義		
授業の概要		教育者・保育者に必要な倫理観の涵養を目指す科目である。カトリック的生命倫理を背景に、人生の始まり（生）と終わり（死）について、具体的な事例を交えながら考えを深めていく。戦争、殺戮、自殺、虐待、中絶、死刑、貧困など、現代社会における生命倫理の問題をキリスト教的視点から捉え直し、考察を深める中で、学生一人ひとりがひとの命と生きる意味を深く考え、自分なりの考え方や意見を持つことを目指す。						
授業の目標		教育者・保育者に必要な倫理観の涵養を目指すことをテーマとする。現代社会における生命倫理の問題をキリスト教的視点から捉え直し、考察を深める中で、学生一人ひとりが人の命と生きる意味を深く考え、自分なりの考え方や意見を持つことを目標とする。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	この授業の概要と授業方法・いのちの誕生・自分と他者のいのちを大切にするために必要なことは何か。以下、毎回現実の社会や教育現場での倫理的問題や要望に触れつつ授業を展開する。			8	貧困と虐待・人の命が大切にされない状況とは			
2	成長の歩みの中で・自分の成長を振り返る			9	出生前診断と障害・中絶・自分がもし生まれてこなかつたらと考えてみる			
3	性の目覚め・自分の性とともに生きるために・多様な性について			10	終末期医療・人の死・死は自分の人生の一部			
4	結婚・就労・人間の尊厳・自分のライフデザインを考える			11	自死・なせいじめが起こるのか考えてみよう			
5	家庭を築く・他者とともに生きる道			12	死刑について考える			
6	新しいいのち・親の気持ちになってみよう			13	差別・暴力・戦争・殺戮・ヘイトクライム、ヘイトスピーチ・紛争解決の方法を探る			
7	高齢を生きる・自分とはちがう年代の人々を理解しよう			14	格差と貧困・子どもの貧困・虐待・この問題に教育者・保育者として向き合ってみよう			
成績評価方法		集団討論への積極的参加・討論推進的奉仕 50% 定期試験・リアクションペーパー 50%						
教科書		『いのちへのまなざし【増補新版】』カトリック中央協議会(2017年3月)日本カトリック司教団(著)						
参考書		『いのちへの答え』オリエンス宗教研究所(2013年11月)星野正道著						
授業外の学習方法		日常生活や社会の動きを授業を通して考え、修得したまなざしでながめ、分析すること。現代の子どもたちの人生・生活・いのちにかかわるものとして問題意識や提案を主体的にもてるようになる。そのために新聞やその他あらゆるメディアを通して現代社会についての情報を得るようにすること。(週2時間程度) 試験対策の時間も確保すること。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		担当教員自身の幼稚園・小学校で園児・児童に教育にあたった経験と保護者・父母・幼稚園教諭への研修をもとに教育現場や保護者からの具体的な要望や問題についても講義し対応への模擬体験を行う。 担当教員がカトリック教会の指導者としてかかわっている信愛の創立母体・ショファイユの幼きイエズス修道会会員の日本社会への貢献方法と、カトリック教会を通して出会う多くの人々の現実生活を紹介することによって学生たちの現代社会に取り組む姿勢を養う。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態	
1	通年	ボランティア実習	森崎陽子 江口怜	1	必修	実験・実習	
授業の概要		学外でのボランティア活動を通じて、キリスト教の愛と奉仕の精神の体得を目指す科目である。教育・保育・福祉現場や地域の活動にボランティアとして参加することで、社会に貢献する態度を身につける。また、世代を越えた交流を通じてコミュニケーション力を養うと共に、奉仕や支援を通じて周囲の信頼を得、協力態勢を構築する等、支援型リーダーの在り方を学ぶ。					
授業の目標		<ul style="list-style-type: none"> キリスト教の愛と奉仕の精神を体得する。 社会に貢献する態度を身につける。 世代を越えた交流を通じてコミュニケーション力を養う。 					

授業のテーマ及び内容

授業計画

事前指導と準備 (6時間)

- ボランティア活動の意義・目的などを学ぶ。
- 活動への参加の方法や流れを把握する。
- 活動先の活動を研究する。
- 活動へ参加する際の留意事項について理解する。
- 活動の際の「課題」を複数考え、それらの解決に向けた方法を考える。

ボランティア活動 (32時間)

- 和歌山県・市、教育委員会等と連携して大学が指定する活動から、学生自身がボランティア先を決め、活動を開始する。
【主なボランティア先】和歌山信愛女子短期大学「子育て広場」、和歌山市地域子育て支援拠点「ドレミ広場」、和歌山市の学童保育「若竹学級」や「児童養護施設」でのボランティア、和歌山県・和歌山市障害者スポーツ大会。他、和歌山県・市主催の教育・福祉イベント、施設等でのボランティア活動
- 活動先で、教育・福祉施設やイベントスタッフの活動補助、乳幼児・児童・障害者等との交流、介護、活動支援や学習補助等のボランティア活動を32時間以上行う。
- 事前に考えた課題解決の方法を実践、評価し、新たな課題を見いだす。
- ボランティア活動解決策を実践し、活動をおこなったとする証明を、活動先の担当者に記入していただく。
- 活動内容を、レジュメ(A4用紙40字×36行で2枚以上)にまとめて提出する。

事後指導 (2時間)

- 参加した活動を振り返り総括を行う。
- レポート課題を作成し、提出する。

成績評価方法	活動内容のレジュメを含む振り返りレポート 70%、ボランティアの活動態度 30%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『ボランティアへの招待』岩波書店(平成13年3月) 岩波書店編集部
授業外の学習方法	
免許・資格	幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目
実務経験と教授内容	

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態							
1	前期	日本国憲法	奥野 庸己	2	必修	講義							
授業の概要		日本国憲法が規定する「基本的人権」についての体系と内容について学習とともに、国民の基本的人権を保障するための統治機構（国会、内閣、裁判所、地方自治）について学習する。憲法の基本原理を理解したうえで、日本国憲法の各規定を見ていき、それら基本原理が日本国憲法の中でどのように反映され、どのように保障されているか明らかにする。憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。											
授業の目標		日常生活において、憲法を特に意識して生活している者は少ないことと思われる。そこで、憲法の意義とその日本社会における働きを把握し、日本国憲法に関する基本的知識を習得することを目標とする。											
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分									
1	憲法総論：一般的な憲法の歴史と基本原理をふまえ、日本国憲法の成立過程・構造・基本原理を学ぶ。			8	基本的人権の保障7：生存権、教育を受ける権利などの社会権について意義・内容を学ぶ。								
2	基本的人権の保障1：人権の歴史、類型、保障の範囲など人権に関して概要を学ぶ。			9	基本的人権の保障8：適正手続きの保障などの人身の自由、国務請求権、参政権についてその意義・内容について学ぶ。								
3	基本的人権の保障2：包括的な人権とされる幸福追求権と法の下の平等についてどのように保障されているか学ぶ。			10	統治1：日本国憲法における国の政治システムである統治の基本原理について学ぶ。								
4	基本的人権の保障3：精神的自由権の総論と精神的自由権のうち、思想・良心の自由について学ぶ。			11	統治2：三権のうち立法権の意味・概念、及びそれを担う国会の地位、組織、権能について学ぶ。								
5	基本的人権の保障4：精神的自由権のうち、信教の自由、学問の自由について学ぶ。			12	統治3：三権のうち行政権の意味・概念、及びそれを担う内閣の組織と権能、その他制度について学ぶ。								
6	基本的人権の保障5：表現の自由及び関連する事項について、その意義や重要性について学ぶ。			13	統治4：三権のうち司法権の意味・概念、それを担う裁判所の組織と特質、違憲審査制度について学ぶ。								
7	基本的人権の保障6：職業選択の自由、居住移転の自由、財産権などの経済的自由権の内容・意義について学ぶ。			14	統治5：税や予算といった国家の財政と地方自治制度の内容、問題点について学ぶ。これまでの授業内容を振り返る。								
成績評価方法		定期試験 70%， 課題・小テスト等 20%， 授業へ取り組む姿勢・態度 10%											
教科書	適宜、必要に応じ資料を配布する。												
参考書	適宜、必要に応じ資料を配布する。												
授業外の学習方法	授業の復習及び小テスト対策に向けた学習を週2時間程度行う。試験対策、課題作成の時間も確保すること。												
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目												
実務経験と教授内容	弁護士実務に就いている者が全授業を担当する。												

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	ヘルスプロモーション科学	松本 健治	2	選択	講義		
授業の概要		大学生として理解しておきたい健康科学の基礎を学ぶ科目である。わが国の世界最長寿国への歩みと健康作りの3要素、運動、栄養、休養などのライフスタイルのあり方について理解した上で、健康的な生活習慣を身に付けたり、健康に好ましい環境をつくるための知識や能力を高め、将来、教育専門職としての基礎的な教養が身に付くことを目的とする。						
授業の目標		わが国の世界最長寿国への歩みと健康作りの3要素、運動、栄養、休養などのライフスタイルのあり方について理解した上で、健康的な生活習慣を身に付けたり、健康に好ましい環境をつくるための知識や能力を高め、将来、教育専門職としての基礎的な教養が身に付くことを目的とする。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	健康とは、健康教育とヘルスプロモーション			8	休養指針とストレス対策			
2	生活習慣病、メタボリック症候群とライフスタイル			9	寿命とスポーツ			
3	健康行動・危険行動、行動を理解する			10	生活活動強度と指数			
4	健康教育・行動変容理論			11	危険行動理論・喫煙、飲酒、薬物乱用			
5	ライフスキル、生きる力、EQ			12	疫学・感染症の3要因とH I V・S T D			
6	運動所要量と運動指針			13	潜在危険論とドミノ理論			
7	栄養所要量と食生活指針			14	食品環境			
成績評価方法		定期試験 80%, 出席状況とミニレポートを含む受講態度 20%						
教科書		事前に講義内容の抄録と関連資料を配布します						
参考書		『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 及び適宜、資料を紹介する。						
授業外の学習方法		週2時間程度の復習を行うこと。 試験対策の時間を確保すること。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	情報処理論	大山輝光	2	選択	講義		
授業の概要		コンピュータを活用して行われる情報処理の基礎を学ぶ科目である。情報社会の光と影、情報機器の安全な取り扱い、インターネットを用いた情報収集など、情報を活用するために求められる基礎的な知識を身につける。必要に応じて演習を取り入れながら学習することで、社会生活を支える基盤となっている情報処理技術について理解を深める。						
授業の目標		コンピュータを活用することでどのようなことが可能になるのかを理解する。コンピュータの利点と欠点、情報機器の安全な取り扱い、インターネットの光と影など、情報を活用するために求められる基礎的な知識と技術を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション(受講に関する注意、授業用コンピュータの利用方法)			8	コンピュータの動作原理と情報処理の流れ			
2	情報の収集と活用			9	コンピュータの性能と歴史			
3	ファイルの種類と取り扱い			10	記憶装置の種類と特徴			
4	アナログ情報とデジタル情報の違い、アナログ情報のデジタル化			11	出力装置の種類と特徴(OCR や OMR、ディスプレイヤやプリンタ)			
5	アルゴリズムとプログラム、2進数と16進数			12	ソフトウェアの種類と役割			
6	基数変換			13	情報機器の安全な取り扱い			
7	様々なデータの情報量			14	情報通信ネットワーク、インターネットの光と影			
成績評価方法		定期試験の成績 50%、課題への取り組み状況およびその内容 40%、積極的な受講態度 10% を総合して評価する。						
教科書		適宜、資料を配布する。 (『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他)						
参考書		『文科系のためのコンピュータリテラシ』サイエンス社 草薙信照 他 『小学生からはじめるわくわくプログラミング』日経BP社 阿部和広 監修						
授業外の学習方法		事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。パソコンやスマートフォン等を積極的に活用し、週 2 時間程度の自主的な学習が必要である。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	国際教育論	相川 真佐夫	2	選択	講義		
授業の概要		グローバル社会において異文化への柔軟な対応を育成する国際理解教育の基礎的理論と実践を学ぶ科目である。文化の特質や、背景をなす社会や国際教育の歴史及び思想に触れながら、異文化を深く理解するための教育実践をおこなうには何が必要かを考える。教育者としての視点から、相互理解の基準となる自文化の様相、所与の環境への適応として形成された歴史を学び、文化を等差優劣の視点でなく、自他に内在する存在として捉える。国際環境における公正な思考と判断力を培うことを目的とする。						
授業の目標		国境を越えて行き交う人の接触が多い社会では、交流ばかりではなく摩擦も起こる。現代社会に生きる子どもたちが、異文化間理解力を身につけ、摩擦の問題解決力を育むことができるよう、教育者としても異文化理解力を身につけ、教育の実践を行うことができるようになる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	国際理解教育概説 国際理解教育とは何か、何故必要か			8	国際理解教育の実践：小学校の実践 小学校でのプロジェクト型国際理解教育			
2	国際比較で見る日本の教育の現場と課題			9	国際理解教育の実践：小学校の実践 小学校でのワークショップ型国際理解教育			
3	国際理解教育の歩み 「総合学習の時間」と国際理解教育			10	国際理解教育の実践：小学校の実践 小学校での地域連携型国際理解教育			
4	国際理解教育の歩み 外国語教育と国際理解教育			11	国際理解教育の実践：中学校の実践 中学校でのプロジェクト型国際理解教育			
5	国際理解教育の歩み 諸外国の国際理解教育			12	国際理解教育の実践：高等学校の実践 高等学校でのプロジェクト型国際理解教育			
6	国際理解教育のカリキュラム 国際理解教育とクロスカリキュラム			13	国際理解教育の国際動向 OECD: Education at a Glance			
7	国際理解教育の実践 国際理解教育と教育現場での実践			14	国際理解教育の国際動向 国際理解教育の総括討議			
成績評価方法		中間報告書 35%, 試験 35%, グループ発表 30%						
教科書		『ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら第5版』開発教育協会(2016年1月)						
参考書		『国際理解教育ハンドブック:グローバル・シティズンシップを育む』明石書店 日本国際理解教育学会 『グローバル時代の国際理解教育—実践と理論をつなぐ—』明石書店 日本国際理解教育学会 『生徒の生き方が変わる グローバル教育の実践』メディア総合研究所(平成27年8月)石森広美						
授業外の学習方法		教科書やプリントでの毎回指定された箇所を事前に読んでおくこと。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態			
1	後期	子どもと遊び	大橋 真由美	2	選択	講義			
授業の概要		大人が提供する子どものための文化「児童文化」「児童文化財」のみならず、子どもが主体となる子どもの文化「子ども文化」の概要と実践を学ぶ。特に「子ども文化」の中心をなす遊びは、人間関係や環境、言葉や表現、健康などの学びを子どもに提供する。そこには「児童文化財」も関与することから、その扱い方や作り方を体験し、子どもの言語表現や身体表現を導き出すための方法や技術を修得する。これらを通して、遊びの中の学びの意味と可能性を探求し、子ども理解を深め、それらが子どもの発達・発育に及ぼす社会的意義を考える。							
授業の目標		子ども理解を深め、子どもの言語表現や身体表現を導き出すための指導方法を修得する。							
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分					
1	子どもと遊び 子ども・児童文化財・大人でなる「遊びの空間」		8	絵本を見る、子どもと玩具					
2	一例としての「絵解きの空間」 子ども・絵本・大人の関係性		9	絵本を見る、子どもと人形・ぬいぐるみ					
3	子どもにとっての遊びの意味		10	児童文化財としての人形劇					
4	社会を反映する子どもの遊び		11	簡単な人形劇を作る					
5	子どもの発達と児童文化・児童文化財		12	子どもを見守る家族や社会					
6	子どもの観点で絵本を読む		13	子どもと年中行事					
7	「遊びの空間」に於ける玩具・人形		14	子どもと祭り・伝承遊び					
成績評価方法		定期試験 50%, 毎授業時に提出の小レポート 30%, 作品提出 20%							
教科書		『新版 児童文化』ななみ書房(平成28年3月)皆川美恵子ほか編著							
参考書		『保育内容「言葉」指導法』ミネルヴァ書房(平成30年)馬見塚昭久ほか編著、『ペーパーサート 大百科』ひかりのくに(平成26年)阿部恵著							
授業外の学習方法		次回に行われる教科書の内容を事前に読んでおくこと。子どもの遊びを観察すること。(週2時間程度)、及び試験対策、小レポート対策の時間も確保すること。							
免許・資格		保育士資格選択必修科目							
実務経験と教授内容									

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	日本語表現	小林康宏	2	選択必修	講義		
授業の概要		現代を生きる教養人として必要な、日本語のコミュニケーション力を身につける授業である。「読む／書く」「聞く／話す」ことを主軸とし、目的や条件に応じた音声・文字表現を反復しながら行う演習と、基礎的な音声・文字表現のルールを講義形式で確認する。また、敬語の使い方などの基本的マナーを学習し、生活の基本的な場面においてコミュニケーションする力を身につける。						
授業の目標		実用的な文章の書き方、自己を見つめる目を鍛し人間性を豊かにする文章の書き方、実用的な音声表現の仕方など、豊かな自己表現の方法を習得すると共に、教養人として必要なコミュニケーション力を身に付けることができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	自己紹介の仕方:具体的な事柄を入れ自己紹介する。			8	アンケートの基礎:アンケートの方法を知り、行う。			
2	ノートの取り方:授業を再現できるノートをつくる。			9	プレゼンテーションの方法:効果的な方法を知る。			
3	敬語の基礎:敬語の基本的な種類を知り、使う。			10	レポートの書き方:レポートの手順や体裁を知る。			
4	メールの書き方:依頼やお礼のメールを書く。			11	小論文の書き方:フォーマットを知り、小論文を書く。			
5	手紙の書き方:基本的な書式とマナーを知る。			12	協働的な話し合い:グループミーティングを行う。			
6	説明の方法:説明の順序を知り、説明し合う。			13	文学的文章の書き方:小説等文学的文章を書く。			
7	調べ方の基礎:図書館やWebでの調べ方を知る。			14	豊かな音声表現:音読、朗読、群読を行う。			
成績評価方法		定期試験 20%、課題レポート 40%、演習 40%						
教科書		『大学生のための日本語表現トレーニングスキルアップ編』三省堂(2008年8月) 橋本 修 他編著						
参考書		適宜紹介する。						
授業外の学習方法		1週間に1時間程度の予習・復習等を行うこと。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	英語コミュニケーション I	辻伸幸	1	必修	演習		
授業の概要		高校までに修得した英語力を根底として、無理なく英文法の概念を学び直し、日常的な語彙や表現を理解した上で、自分の意見を英語で発信できるレベルの英語運用力の習得を目指す授業である。ペアワークやグループワークを取り入れたり、クイズやワークシート、視聴覚教材など多様な媒体を使用したりして、学習者が楽しく興味をもって学び、英語が使える満足感を実感できるようにする。また、発音やリズムに特化したワークにも挑戦し、英語での発信力を強化する。						
授業の目標		1 活動を通して英文法や語彙・表現を学び直しコミュニケーション能力に結びつける。 2 英語の話すこと、聞くこと、読むこと、書くことの技能を総合的に伸長する。 3 英語に興味をもち、使えることで満足感を実感し学び続ける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	はじめまして(文形)			8	パーティーを開こう(現在分詞)			
2	レシピを見よう(自動詞と他動詞)			9	割れた窓(過去分詞)			
3	いつも何をしているの(現在時制と頻度の表現)			10	スポーツをしよう (現在完了形)			
4	何を持っていきますか(名詞と代名詞)			11	フリマでお買い物 (形容詞と比較)			
5	あなたの理想の部屋は(前置詞)			12	レポートの提出 (関係代名詞)			
6	目指そう健康生活(助動詞)			13	どこに住んでいるの(仮主語)			
7	旅に出よう(不定詞と助動詞)			14	宝くじが当たったなら (仮定法)			
成績評価方法		定期試験 50%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 20%						
教科書		『Children's Garden English for Early Childhood Care and Education Majors』成美堂 (2018年) 赤松直子著 『英検2級をひとつひとつわかりやすく。新試験対応版』学研プラス (2016年) 柳瀬実佳著						
参考書		なし						
授業外の学習方法		分からぬ語彙は事前に予習して調べておく。毎回、前時の学習の小テストを実施するので、復習をして備える。これら予習と復習は1週間に1時間程度行う。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		小学校教員として英語教育を実践してきた経験者が全ての回において、幼稚園・小学校教育現場で必要となる基礎英語力の定着を目指した演習を行う。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	英語コミュニケーションⅡ	辻伸幸	1	必修	演習		
授業の概要		英語コミュニケーションⅠで修得した英語運用力を基に小学校教育や幼稚教育等の現場における英語でのコミュニケーション力の向上を目指す科目である。特に、小学校や幼稚園等で必要となる実践的な場面・内容に焦点を当てることによって、学ぶ必然性を生み出し、高い学習意欲を保ちながら無理なく英語でのコミュニケーション力を養う。他教科を英語で学ぶ CLIL (内容言語統合型学習) 的内容や日本の教育、文化、観光等の紹介等も含める。ペアワークやグループワークなどで協働学習やタスク学習を導入して、主体的で対話的な学びを展開する。						
授業の目標		1 小学校教育や幼稚教育等の現場における英語の語彙や表現を理解する。 2 小学校教育や幼稚教育等の現場における英語でのコミュニケーション力を高める。 3 英語を主体的で対話的に学び英語を用いたコミュニケーション力を高める。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	ALT の南小学校への初訪問			8	授業を終える			
2	ALT とのコミュニケーション			9	幼稚園でのアクティビティ			
3	学校給食			10	アサガオの栽培とチョウの一生			
4	子供の遊び			11	おにぎりとカレーの作り方			
5	最初の授業			12	タウンマップを作ろう			
6	授業のスタート			13	日本文化の紹介			
7	授業の展開			14	卒業			
成績評価方法		定期試験 50%, 課題レポート 30%, 授業への取り組み 20%						
教科書		『Hello, English-English for Teachers of Children』成美堂 (平成28年1月) 相羽千州子 藤原真知子 Brian Byrd/Jason Barrows 著						
参考書		なし						
授業外の学習方法		分からぬ語彙は事前に予習として調べておく。毎回、前時の学習の小テストを実施するので、復習をして備える。これら予習と復習は1週間に1時間程度行う。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		小学校教員として英語教育を実践してきた経験者が全ての回において、幼稚園や小学校教育現場で必要となる英語力の定着を目指した演習を行う。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	情報処理演習Ⅰ	大山輝光	1	必修	演習		
授業の概要		情報機器を安全かつ有効に活用するための基礎を学習する科目である。パソコン操作の基本的な操作方法を始め、Web ブラウザや電子メールの利用、インターネットを活用した情報検索と情報倫理、ワープロ、表計算、プレゼンテーションなどの基本的なソフトウェアの使い方など、大学で用いられる情報機器を使用するための知識と技能を身につける。						
授業の目標		パソコンの実践的な使い方や電子メール、インターネットの活用方法、情報リテラシーを学ぶことにより、コンピュータを安全かつ有効に利用するための知識と技術を習得することを目標とする。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション(受講に関する注意、授業用コンピュータの利用方法)			8	表計算ソフトの活用(関数の利用、グラフの効果的な使い方)			
2	コンピュータの基本操作とインターネットを利用した情報検索、電子メールの使い方			9	ソフトウェアの統合的な利用①:ワープロと表計算ソフトを活用したレポート作成			
3	情報のデジタル化(ペイントとサウンドレコーダーの利用)			10	プレゼンテーションソフトによるスライド作成、スライドショー			
4	ファイル操作の基礎(ファイルの種類、拡張子、サイズ)			11	効果的なプレゼンテーション(アニメーション、フォトアルバム、発表者ツール)			
5	ワープロソフトによる文書作成			12	Web ページの作成			
6	ワープロソフトの活用(図表、ワードアート、様々な書式、テンプレートの利用)			13	ソフトウェアの統合的な利用②:様々なファイルの種類で保存、PDF			
7	表計算ソフトによるデータ処理の基礎			14	情報機器の利用(デジタルカメラ、スキャナ、プリンタ、プロジェクタ、電子黒板)			
成績評価方法		定期試験の成績 30%、毎回の授業中に提示する課題への取り組み状況およびその内容 30%、課題レポート 30%、積極的な受講態度 10% を総合して評価する。						
教科書		適宜、資料を配布する。 『情報リテラシガイド』情報処理ガイド編集委員会 大山輝光 他						
参考書		『文科系のためのコンピュータリテラシ』サイエンス社 社草蘿信照 他 『例題30+演習問題70でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキスト』技術評論社 定平誠						
授業外の学習方法		事前事後の学習に役立つよう、授業資料を公開する。多目的コンピュータ室の機器を積極的に活用し、通常は週 2 時間程度、レポート課題の作成等に際しては 4 時間程度の自主的な学習が必要である。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
1	前期	スポーツと健康 I (講義)	森崎陽子	1	必修	講義					
授業の概要		保健体育の基礎理論について学ぶ科目である。人間の体の仕組みと健康との関連、文化や娯楽（レクリエーション運動）としての価値、運動・スポーツの歴史・使命・仕組み等の制度を理解し、その魅力や楽しさを知るとともに生涯体育の意義を学ぶ。更に、各種競技についてのルールや規則への理解を通じてスポーツへの関心を高め、積極的に生涯体育に取り組めるように繋げていく。									
授業の目標		生涯を通しての「健康づくり」のために、身体の仕組みと働きを理解することができる。運動を通した「健康づくり」に対する意識を高め、具体的な対策をたて取り組むことができる。スポーツの魅力や楽しさを知り、積極的に生涯体育に取り組むことができる。									
回	授業のテーマ及び内容				各回 50 分						
1	生涯スポーツ基本法の理念と生涯体育		8	体の仕組みと健康 (3) 呼吸・循環器の構造と機能、スポーツとの関わりを考える。							
2	健康と体力の定義 (1) 「健康」の定義を理解する。		9	体の仕組みと健康 (4) エネルギー代謝と運動の関係を理解し、スポーツ時のエネルギー代謝の算出方法を学ぶ。							
3	健康と体力の定義 (2) 「健康」と「体力」の関係を学び、スポーツの必要性を理解する。		10	体の仕組みと健康 (5) 運動と脳・神経系の機能との関係を理解し、精神活動を支えるスポーツの効果について考える。							
4	人間の形態の発育と機能の発達との関係 (1) 幼児期から青年期に適切な運動方法を学ぶ。		11	身近なスポーツと健康 (1) 個人スポーツ競技とそのルールについて学ぶ。							
5	人間の形態の発育と機能の発達との関係 (2) 老年期こむけて適切な運動方法を学ぶ。		12	身近なスポーツと健康 (2) 集団スポーツ競技とそのルールについて学ぶ。							
6	体の仕組みと健康 (1) 骨格系の仕組みと働き、運動との関係を理解し骨の健康を考える。		13	レクリエーションとしての運動：文化や娯楽としてのスポーツの意義を考える。							
7	体の仕組みと健康 (2) 骨格筋の種類と仕組み、筋収縮の原理を理解し、筋力トレーニングと健康との関わりを考える。		14	運動・スポーツの歴史・制度: オリンピックを中心に運動・スポーツ普及の歴史と制度について学ぶ。							
成績評価方法		定期試験の成績 80%、小テスト 20%									
教科書		適宜資料を配布する。									
参考書		『図説・運動の仕組みと応用 2版』医歯薬出版 中野昭一									
授業外の学習方法		週2時間程度の小テスト対策及び予習・復習を行う。定期試験対策の時間を確保すること。									
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目									
実務経験と教授内容											

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	通年	スポーツと健康Ⅱ(実技)	森崎陽子	1	必修	実験・実習
授業の概要		体の仕組みと運動機能の関連を学びながら基礎体力づくり運動を体験し、グループ活動の中で主体的に学びあい協力しながら運動する喜びを味わう。また自ら考案した体力トレーニングを実施することで健康管理法を身につける。				
授業の目標		「動きの原理」を学びより高い運動技術能力を養う中で「動くことの楽しさ」を体感すると共に、生涯体育の意義を理解し「活動意欲」「コミュニケーション力」の向上を図る。また、生涯を通しての「健康づくり」の為、健康管理法を身につける。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 50分		
1	オリエンテーション 生涯体育の意義、即時反応運動と仲間作り			8	「バドミントン」(2) チーム作りと役割分担	
2	基礎体力作り(1) 筋力について			9	「バドミントン」(3) ダブルスを中心とする基礎練習	
3	基礎体力作り(2) 瞬発力について			10	「バドミントン」(4) 実践練習と反省会	
4	基礎体力作り(3) 調整力について			11	「バドミントン」(5) 団体戦(リーグ戦)と反省会	
5	基礎体力作り(4) 持久力について			12	「バドミントン」(6) 団体戦(リーグ戦)と表彰式	
6	各自のトレーニング対策			13	基礎体力作り(5) 夏期休暇中の体力作り	
7	「バドミントン」(1) バドミントン競技の原理を考える。			14	前期授業のまとめ	

回	授業のテーマ及び内容	各回 50 分			
15	「ソフトバレーとバレー」(1) バレー競技の動きの原理を考える。	22	「ソフトボール」(3) 実践練習と反省会		
16	「ソフトバレーとバレー」(2) 経験者から基本技術を学ぶ。	23	「ソフトボール」(4) 試合 まとめ		
17	「ソフトバレーとバレー」(3) 技術レベルに分けて実践練習	24	「バスケットボール」(1) 技術の原理を考え基本練習 チーム作りと役割分担		
18	「ソフトバレーとバレー」(4) 技術レベルに分けて試合	25	「バスケットボール」(2) チーム作りと役割分担		
19	「ソフトバレーとバレー」(5) 試合 まとめ	26	「バスケットボール」(3) 実践練習と反省会		
20	「ソフトボール」(1) 動きの原理を考え基本練習	27	「バスケットボール」(4) 試合 まとめ		
21	「ソフトボール」(2) チーム作りと役割分担	28	後期授業のまとめ		
成績評価方法		授業ノート 30%、競技技術 50%、自主トレーニングの記録レポート 20%			
教科書	適宜資料を配布する。				
参考書	『図説・運動の仕組みと応用 2版』医歯薬出版 中野昭一				
授業外の学習方法					
免許・資格	小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目				
実務経験と教授内容					

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	通年	教職キャリアデザイン	森崎 陽子 辻 伸幸	1	必修	講義		
授業の概要		教員となる夢を実現し、自らが持つ能力を活かすための「大学生活のキャリアデザイン」の形成を進めていく科目である。大学生活や教員としての職業人生、キャリアについて、自らが主体となって構想し、実現していく力を身につける。自身の現状と能力を再認識し、「ありたい将来像について」を考慮しながら、自己を客観視する視点を養成し、自己理解を深めるとともに、大学生活における学習活動（キャリアデザイン）の構築を図る。						
授業の目標		現在の保育・教育現場の要請に応えられる、保育者・教育者の在るべき理想像を追及し目標とする。また自己解析を行い高い向上心を持ち目標に至るまでの道のりを自ら計画し、必要とされる保育者・教育者の基礎力・素養を体得していく。						
回	授業のテーマ及び内容			隔週 各回 50 分				
1	保育者、教員の仕事とは(1):保育者・教育者の仕事の意義を理解する。			8	基礎力を身に付ける(4)「処理力」			
2	保育者、教員の仕事とは(2):求められている保育者・教育者像を確認する。			9	専門力を身に付ける(1)保育・教育のプロフェッショナルになるということと条件			
3	自己分析(1):保育者・教育者にふさわしい点は(文章化・言語化・発表)と教職基礎実習事前指導			10	専門力を身に付ける(2)プロになる道筋			
4	自己分析(2):改善・修正・向上すべき点は(文章化・言語化・発表)と教職基礎実習事後指導			11	専門力を身に付ける(3)専門力の磨き方 知識と技術			
5	基礎力を身に付ける(1)「対人能力」			12	専門力を身に付ける(4)専門力の磨き方 考える力とまとめる力			
6	基礎力を身に付ける(2)「文章力」			13	年齢段階別の教職キャリアデザイン			
7	基礎力を身に付ける(3)「思考力」			14	まとめ			
成績評価方法		課題レポート 100 %						
教科書		適宜、資料を配布する。						
参考書		『キャリアデザイン入門(Ⅰ)基礎力編』 日経文庫(平成28年3月)大久保幸夫 『キャリアデザイン入門(Ⅱ)専門力編』 日経文庫(平成28年3月)大久保幸夫						
授業外の学習方法		1週間に1時間程度の予習や復習としての読書やレポート課題等を行う。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		小学校教員として実践してきた経験者が全ての回において、小学校教員としてのキャリア理解や選択ができるような教授を行う。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	通年	教職基礎ゼミナール	大山輝光 千森督子 森崎陽子 村上凡子 森下順子 山本紀代 江口怜	2	必修	演習
授業の概要		教育者になるために必要な大学での学び方を修得するとともに、和歌山県の教育的問題を探求し、4年間の課題を見いだす科目である。10人程度の少人数に分かれ、大学での学びについてのオリエンテーション（図書館ガイダンス、情報機器の活用法などを含む）をはじめ、大学生として求められる講義や演習への参加姿勢、有効なノートの取り方や活用方法について学ぶ。また、和歌山県の幼児・初等教育における課題を探求し、レポートにまとめ発表することで、レポートの書き方やプレゼン方法など、情報共有を図る手法を身につける。さらに、ゼミ生間や担当教員との交流を通して、所属意識の涵養をねらう。				
授業の目標		到達目標は、1) 文章作法、プレゼンテーションの方法等、学ぶための基本的な能力を身につけること、2) 地域の教育の諸課題に关心をもち、その課題に関する文献資料やインターネット上の情報を主体的に収集し、的確に整理と解釈ができるようになること、3) 収集した資料をもとに情報を要約し、わかりやすく情報提示をして発表する能力を身につけること、4) 自分の意見を適切に表明し、また他者の意見を傾聴することにより、仲間や教員と対話による交流をすることである。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	オリエンテーション:科目のねらい、到達目標、評価方法、進め方について			8	現代における教育の諸課題—グローバルな視点、ローカルな視点の双方から—	
2	大学で学ぶことの意義と学ぶ方法			9	アカデミック・スキルを磨く ③体験学習の報告書の作成	
3	図書館の利用の実際／ICT 機器の活用方法:インターネットでの資料収集の仕方			10	インターネット上で収集した資料の要約と考察	
4	ICT 機器の活用方法:インターネットでの資料収集の仕方／図書館の利用の実際			11	教育に関する問題意識に基づいた専門図書の選書と精読	
5	アカデミック・スキルを磨く ①論説文を読み解く			12	発表の準備 配布資料の作成	
6	アカデミック・スキルを磨く ②文章作法の基本、正しい引用の仕方			13	問題意識に基づいたテーマ別発表	
7	教育原論:教育史、教育思想の振り返り及び教育の目的と意義			14	前期まとめ—学んだことの振り返りと自己評価—	

回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分			
15	和歌山における子どもの福祉と教育に関する全般的課題	22	論文作法—テーマに基づいた論文・レポートの書き方		
16	和歌山における幼児教育の課題	23	効果的なプレゼンテーション方法		
17	和歌山における初等教育の課題	24	発表に向けた準備:配布資料の作成		
18	問題意識と地域の教育課題に基づいた研究テーマの設定と資料収集	25	発表に向けた準備:プレゼンテーションデータの作成		
19	テーマに基づいたフィールドワーク	26	テーマ別学修成果の発表及び意見交流、相互評価①		
20	フィールドワークの記録の作成	27	テーマ別学修成果の発表及び意見交流、相互評価②		
21	資料の整理と焦点化	28	学修内容と成果に関する振り返り、今後の学びの展望		
成績評価方法		前期提出報告書 20%、発表 30% (前期、後期各 1 回)、後期発表資料 40%、最終レポート 10%			
教科書	『なせば成る！スタートアップセミナー学習マニュアル三訂版』山形大学出版会 (平成 29 年 1 月) 山形大学基盤教育院 『なさねば成らぬ！(新版) —「なせば成る！」使いこなしガイドブックー』山形大学基盤教育院編(平成 26 年 2 月)				
参考書	『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館(2018年3月)文部科学省著 『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 総則編』東洋館出版社(2018 年)文部科学省 『保育所保育指針<平成29年告示>』フレーベル館(2017年5月) 『幼稚園教育要領<平成29年告示>』フレーベル館(2017年5月) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成 29 年告示>』フレーベル館(2017 年 5 月)				
授業外の学習方法	週 2 時間程度、復習と課題に取り組むと共に、次回に行われる教科書の内容を予習しておくこと				
免許・資格	保育士資格選択必修科目				
実務経験と教授内容	教員経験者が全ての回を担当				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
1	通年	教職基礎実習	辻伸幸 小田真弓	1	必修	実験・実習					
授業の概要		小学校、幼稚園、認定こども園などでの現場体験／観察実習を通して、教育者・保育者の仕事理解を図る科目である。和歌山市内の公立小学校で2日、幼稚園または認定こども園で2日、和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園で1日の現場体験・観察実習を中心とした実習を行う。教育現場の教員が働く姿や子どもの様子を観察し、教師の職務を理解すると共に、目指すべき将来の教育者・保育者像の具現化を図る。さらに、幼児・児童との関わりを通して、以降の学修課題を見いだし、免許・資格取得に向けて学修意欲向上を目指す。									
授業の目標		実際の保育・教育現場での現場体験・観察実習を通して、教員や保育者が働く姿や子どもの様子を観察し、それらの職務を理解すると共に、魅力を発見し教育者・保育者を目指す意識を高める。									
授業のテーマ及び内容											
<p>小学校での実習:2日間</p> <p>和歌山市内の公立小学校での現場体験・観察実習を通じて、教師の職務への理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員の魅力と仕事内容を知る。 ・児童の見方、児童理解の方法を身につける。 ・教師の児童への働きかけ方を知る。 ・学級運営・児童や教師の動きに関心を持つ。 ・教師の基本的な指導方法及び指導内容を学ぶ。 <p>幼稚園または認定こども園での実習:3日間</p> <p>和歌山信愛女子短期大学附属幼稚園及び、和歌山市内の幼稚園または認定こども園での現場体験・観察実習を通じて、保育者の職務への理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園または認定こども園の役割・実態を知る。 ・幼稚園教員、保育者の魅力と仕事内容を知る。 ・幼稚園教員、保育者の幼児への関わりを学ぶ。 ・幼児の見方、幼児理解の方法を身につける。 ・学級運営・幼児と教師の動きに関心を持つ。 											
成績評価方法	現場体験・観察実習記録簿 50% レポート課題 50%										
教科書	適宜、資料を紹介する。										
参考書	『小学校教師になるには』ぺりかん社(2010年3月)森川輝紀編著 『幼稚園教師になるには』ぺりかん社(2009年6月)大豆生田啓友・木村明子著 『保育士になるには』ぺりかん社(2014年12月)金子恵美編著										
授業外の学習方法	授業前と授業後のレポート課題に取り組む。										
免許・資格	幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目										
実務経験と教授内容	小学校教員・幼稚園教員として実践してきた経験者が全ての回において、教育者・保育者の現場での基礎的実習を指導する。										

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	世界の中の和歌山	福田 光男	2	必修	講義		
授業の概要		和歌山の世界遺産である「紀伊山地の霊場と参詣道」と「和歌山の偉人」を主題に、世界に誇る和歌山の魅力を学び、世界に発信できる力を養う科目である。「高野山」「熊野三山」「吉野・大峯」の山岳霊場とそこに至る「高野山町石道」「熊野参詣道」「大峯奥駈道」の参詣道、そして、人々の信仰紀伊山地の大自然によって形成された「文化的景観」が世界遺産に選ばれた理由と意義を探る。また、濱口梧陵、華岡青州、南方熊楠、陸奥宗光等、和歌山が世界に誇る偉人の業績に触れ、彼らを輩出した和歌山の風土と歴史について考察する。「ひと・もの・こと」に焦点をあて、経済的にも文化的にも独自に繁栄してきた世界に誇る和歌山の素晴らしいところについて検討していく。						
授業の目標		和歌山の歴史・地理を中心に和歌山のもつ魅力について学ぶ。また、和歌山の「ひと・もの・こと・つながり」に焦点をあて、世界に輝く偉人を生んだ和歌山に誇りをもち世界に発信しようとする豊かな心を培う。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	若山・和歌山・WAKAYAMA・海と山と川について			8	医学への貢献：華岡青州等について			
2	紀伊半島のひと・もの・ことについて・風土と歴史			9	和歌山から世界へⅠ：南方熊楠と松下幸之助について			
3	世界に開かれた紀伊湊について			10	和歌山から世界へⅡ：陸奥宗光について			
4	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」・高野山について			11	世界の中の和歌山・産業について			
5	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」・熊野三山と参詣道について			12	世界の中の和歌山・自慢について：みどりとみずとみちについて			
6	世界の中の日本・根来衆と雜賀衆について			13	和歌山から世界へ発信すること・つながりについて			
7	世界津波の日・濱口梧陵について			14	すばらしき和歌山・世界に誇る和歌山について			
成績評価方法		定期試験の成績 60%， 毎時間の振り返りシート 20%， 発表会の内容 20%						
教科書		『わかやま何でも帳』(和歌山県教育委員会)						
参考書		『和歌山県史』『和歌山市史』『小学校の各種の副読本』						
授業外の学習方法		次回に行われる内容について、教科書やその他の資料で調べておくこと。(週 2 時間程度) 試験対策の時間も確保すること。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	歴史・文化と風土	小山 譲城	2	選択	講義		
授業の概要		日本各地の風土と歴史・文化を概観するとともに、紀の国和歌山の歴史と文化について、古代から現代までの歴史上重要な出来事や文化財を事例にあげ、中央の歴史や文化とどのように関連するのか学習する。史料に基づいて史実を検証する態度を身につけると共に、和歌山の歴史と文化について幅広く理解を深める。和歌山の歴史と文化を学ぶことによって、郷土に誇りを持ち、周囲の人々にその特徴を語れるようになることを目標とする。さらに、他国の歴史と文化を尊重する姿勢と教養の修得を目指す。						
授業の目標		紀の国の歴史や文化と風土について、中央の歴史上重要な出来事とどのように関連するのか考察する。また、紀の国は自然豊かな景観と多くの文化遺産に恵まれ、進取の精神に富んだ人々が多く、それらの人々が各地の産業に与えた影響などを事例に学習する。そのため、史料に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史・文化と風土について幅広く理解を深める。紀の国の歴史と文化の重要事項を事例に学ぶことによって、自分の郷土の歴史や文化に関心と誇りを持ち、周囲の人々に地域の歴史を興味深く、わかりやすく語れるような人材を育成する。さらに、他国の歴史と文化をも尊重する姿勢と教養が身に付く授業を目標とする。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	各地域を理解するには、地域の歴史・文化・風土を理解することが重要であることを学習する。			8	豊臣秀吉の紀州攻めについて宣教師ルイス・フロイスの報告書と関連して学習する。			
2	古代の紀の国とはどのような状況であったのか、住居遺跡や古墳などを中心に学習する。			9	城下町和歌山について、宣教師ムニヨスがどのように称賛したか、当時の実情を学習する。			
3	「万葉集」と紀の国について、有間皇子事件や天皇・上皇の和歌浦行幸などを学習する。			10	紀の国に徳川御三家が置かれた理由について学習する。			
4	世界遺産に登録された熊野三山と熊野古道について学習する。			11	江戸時代の紀州藩の政治と文化について学習する。			
5	世界遺産に登録された高野山や町石道について学習する。			12	幕末・維新期の紀州藩の政治的動向について学習する。			
6	源平の合戦と熊野水軍、中世の武士団湯浅党について学習する。			13	近代の和歌山がどのようにして発展してきたか、その歴史について学習する。			
7	織田信長の紀州攻めについて宣教師ルイス・フロイスの報告書と関連して学習する。			14	紀の国の歴史・文化と風土の授業内容を総括し、その特徴を考察する。			
成績評価方法		定期試験 50%, 課題・小テスト等 20%, 受講態度・授業への参加度 30%						
教科書		適宜、資料を配布する。						
参考書		『和歌山県謎解き散歩』 新人物往来社文庫 (平成24年6月) 小山謙城 編著						
授業外の学習方法		各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。(週2時間程度) 試験・小テスト対策、課題作成の時間も確保すること。						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		高等学校や大学での授業経験、『和歌山県教育史』や和歌山・海南・御坊・田辺市などの市町村史の編纂に携わった実務経験・研究成果を授業で活用する。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
1	後期	郷土の自然	柳瀬 充男	2	選択	講義					
授業の概要		変化に富んだ海岸線や緑豊かな山々、清らかな河川、そしてそこに形成される多種多様な生態系など、和歌山の豊かな自然環境について学ぶ科目である。多様な生態系とそこに住む動植物について、その特徴や重要性を学ぶと共に、開発や乱獲、地域の荒廃、外来種の侵入など、生物多様性を脅かす危機と課題を、県が策定した『生物多様性和歌山戦略』を教材に学ぶ。									
授業の目標		変化に飛んだ海岸線や緑豊かな山々、清らかな河川、そしてそこに形成される多種多様な生態系など、和歌山の豊かな自然環境について学ぶ科目である。多様な生態系とそこに住む動植物について、その特徴や重要性を学ぶと共に、開発や乱獲、地域の荒廃、外来種の侵入など、生物多様性を脅かす危機と課題を、県が策定した『生物多様性和歌山戦略』を教材に学ぶ。									
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分						
1	ガイダンス：和歌山を知る。		8	日本の外来生物と和歌山の外来生物について学ぶ。							
2	和歌山県の山と川について学ぶ。		9	和歌山の天然記念物について学ぶ							
3	和歌山県の気象と自然災害について学ぶ。		10	和歌山の温泉について学ぶ。							
4	世界のバイオーム・日本のバイオーム・和歌山のバイオームについて学ぶ。		11	和歌山県版自然百選について学ぶ							
5	和歌山の海について学ぶ		12	和歌山の自然のすばらしさの伝え方を学ぶ。							
6	和歌山の農産物について学ぶ		13	農産物の流通と食文化について学ぶ。							
7	日本と和歌山の絶滅種と絶滅危惧種について学ぶ。		14	和歌山の自然のすばらしさ発表会・まとめ							
成績評価方法		定期試験 50%, 課題レポート 30%, 受講態度・授業への参加度 20%									
教科書		適宜、資料を配布する。									
参考書		『生物と無生物のあいだ』講談社現代新書(平成19年5月) 福岡伸一									
授業外の学習方法		週2時間程度の復習及び課題レポート等を行うこと。 試験対策の時間も確保すること。									
免許・資格		保育士資格選択必修科目									
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当									

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
1	通年	地域連携フィールド学習	千森督子 江口怜	1	選択	実験・実習					
授業の概要		地域の文化や特性を地域と連携したフィールド学習で見いだす、夏期集中型の科目である。和歌山県日高川町と連携し、宿泊を伴う5日間の実習を現地で行う。現地調査や文化体験、地域住民との交流を通して豊かな自然と、歴史・生活文化が織りなす郷土の魅力を再発見するとともに、少子高齢化に伴う過疎の現状を認識し、地域への愛情と地域課題解決に向けた熱意を育む。さらに、地域住民との交流を通して、多様な世代と良好な関係を築く、コミュニケーション力の育成を目指す。									
授業の目標		フィールド(実社会の現場)での調査や地域住民との交流、文化体験を通して、地域の文化や特性、魅力が発見でき、地域課題解決に向けた熱意が育める。また、多様な世代と良好な関係を築け、コミュニケーション力育成を目標とする。									
授業のテーマ及び内容											
<p>授業計画</p> <p>1.事前学習:(2時間)</p> <p>和歌山県の地域文化や地域特性、抱える地域課題について学ぶ フィールド調査地の地域文化や地域特性、抱える地域課題について学ぶ 実習内容の検討、準備</p> <p>2.フィールドでの実習:5日間</p> <p>現地観察、現地調査、住民との交流、文化体験</p> <p>3.事後学習: (3時間)</p> <p>調査成果の整理、考察、まとめ、レポート作成</p>											
成績評価方法	課題レポート 60%, 積極的な実習態度 40%										
教科書	適宜、資料を配布する										
参考書	『フィールドワーク事始めー出会い、発見し、考える経験への誘い』 御茶の水書房 (平成28年4月) 小馬徹 『フィールドワーク教育入門 コミュニケーション力の育成』 玉川大学出版部 (平成18年2月) 原尻英樹										
授業外の学習方法	地域に関する書籍や資料を学習し、抱える地域課題についても理解しておく										
免許・資格	保育士資格選択必修科目										
実務経験と教授内容											

専門教育科目

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	教職論	木本毅	2	必修	講義		
授業の概要		教職の意義及び教員の役割・職務内容・研修・服務等について学ぶ科目である。子どもの成長に果たす教師の役割と倫理、制度的位置づけ、教職に必要な資質と能力、理想の教職観、職務の具体的な内容、教師の仕事の実際、指導法と学習理論、学校運営の理論および就学前教育のあり方について学ぶとともに教職・保育職への進路選択についても学ぶ。						
授業の目標		学校教育及び就学前教育・保育について、教職・保育職の社会的・歴史的意義と役割及びその職務の内容・あり方、職務上・身分上の義務さらに研修の意義、教員・保育士の養成と進路、校(園)内外の連携する教育・保育の在り方等について理解を深める。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	人類と教育・保育の果たす役割と学校・保育の誕生。			8	わかる・楽しい授業・学習・保育法のストラテジー。			
2	教育・保育の歴史的・社会的意義と役割。			9	教員・保育士の研修とその意義及び力量形成。			
3	教員・保育士の職務①(学級経営、学習指導と養護)			10	教職・保育職への進路とその養成制度。			
4	教員・保育士の職務②(人づくり・特別活動・行事等)			11	学校・幼稚園・保育所の運営(チームと地域連携)			
5	指導法概論(よい授業・保育法の在り方)			12	特別支援教育・障害児教育の理論と在り方。			
6	学習理論①(教育心理学—行動・認知主義の理論)			13	幼稚園・保育所(園)・こども園の現状と課題。			
7	学習理論②(学習動機論—意欲・達成と原因帰属)			14	学校教育の現状と課題。			
成績評価方法		定期試験 80% 確認小テスト 10% 授業への取り組みの姿勢(発表、レポート) 10%						
教科書		『新教職論』 日本印刷出版 (平成31年) 木本毅						
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)						
授業外の学習方法		授業の復習及び予習、指示された課題の調査。(週2時間程度) 試験・確認小テスト対策の時間も確保すること。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者がすべての回を担当。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	教育原理	市川 純夫 北後 佐知子	2	必修	講義
授業の概要		教育の理念並びに教育に関する歴史、思想、制度、業績等を学ぶ科目である。教育という営みを思想、哲学、業績、人物から学問的にとらえ検証する。教育の意味、歴史、近代学校制度の成立、現代学校教育の状況と課題、教育課程、教授法等を学問的に検証する。さらに、儒教価値観に則る我が国の教育的価値観の高さについても検証する。				
授業の目標		教育という営みの本質として「子どもの発達を励ます」という視点を身に着けるために、具体的な事例（子どもの姿や学校教育の現状）と結びつけ理解を深めることを目指す。そのため、教育現場の映像素材を随時活用する。同時に教育を支える教育思想や教育制度の現状、歴史についての基本的事項を学ぶ。また学校教育だけでなく、地域の教育にも視野を広めることができることが教員の資質として大切と考え、社会教育、生涯教育の分野の学習も進める。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	教育学の意義及び教育の本質と目標:教育を研究する教育学の意義と方法を学ぶ。さらに、教育の本質である「人間が学び発達する」ということの意味を、議論を通して理解する。			7	教育の歴史と制度:近代国家としての教育制度の整備の歴史を解説し、諸外国と日本の教育制度の特徴を理解する。また、「個人の発達」に視点を置いた教育のとらえ方と、「社会の存続発展」に視点を置いた教育のとらえ方の相克、調和についても考察する。	
2	人間の発達段階と教育:誕生から成人への発達する各時期の特徴を理解し、人間発達のメカニズムを学ぶ。人類の発達の特性を動物の発達との比較で原理的に理解する。発達理解の歴史にもふれ、「通常化された早産」などの意味も理解する。			8	教育の思想と学校の役割Ⅰ:「学校教育の祖」と言われるコメニウスの思想と背景を解説し、学校教育を支える教育内容・方法の思想について知る。その上で、現在の学校の教科教育の意味や、道徳教育の意味について理解を深める。	
3	人類と教育の歴史:教育の歴史を人類の歴史と結びつけて大きく理解する。人類の発達と個人の発達を重ね合わせて理解し、二足歩行の成立、手という存在の出現、脳の発達、言語の獲得、文字の発明などをたどり、発達についての理解を深める。			9	教育の思想と学校の役割Ⅱ:ヘルバートの「人格陶冶」の思想を解説し、学校教育の管理、教授、訓育という分野分けを知り、それぞれの関係性を理解する。特に道徳性の育成と知識の獲得の関連性の理解に注目する。	
4	発達と言語:人間の特性としての言語をとりあげ、言語の獲得が人間の発達に果たす大きな役割について理解する。言語と思考についてのヴィゴツキーの論なども解説する。			10	教育の思想と学校の役割Ⅲ:学校を否定するイリッチの「脱学校論」を敢えて素材として解説し、学校制度の持つ根本的な困難点とその克服について考える。いかにして子どもの学習意欲を高めながら、学校教育を展開するかを、具体的な学校の事例を取り上げて解説する。	
5	教育の要素とその相互関係:子ども、教員、家庭、保育所・幼稚園・学校など、教育の構成要素及びそれらの相互関係を解説する。			11	日本の学校教育の特性:日本の学校教育制度の歴史を説明し、そこから出てくる現代の我が国の学校の特性を解説する。また、諸外国の学校についても解説し、我が国の学校との比較検討を行い、その文化的背景の違いを考察する。	
6	教育の思想:中世の教育思想、ルソー、ペスタロッチ、デューイなどの新教育思想の展開と我が国の教育への影響などを解説し、「人間の能力を引き出す」教育のとらえ方を理解する。			12	現代社会の教育課題Ⅰ(地域と教育):地域社会での教育の営みの諸相を解説する。生涯学習社会といわれる教育観の発展を理解する。また、学校と地域が結びついて子育てるという観点から、コミュニティ・スクールの考え方を知り、地域に開かれた学校のあり方を考える。	

13	現代社会の教育課題II (子どもの発達を巡る問題) : 現代の子どもの発達に歪みをもたらしかねない社会の諸環境を考察し、子どもの体の問題、子どもの食べ物の問題、遊びの問題などを取り上げて、その現状と問題克服の方法を考え合う。	14	現代社会の教育課題III (教育改革の動向) : 現在の教育が抱えている諸問題の解説と、近年の教育政策、教育改革動向について解説する。特に「学力」問題、道徳教育の問題、保護者と学校の関係など、具体性を持たせて考え合う。
成績評価方法		定期試験の成績 80%, 何回か授業後に書いてもらう感想文 20%	
教科書		毎回、授業内容のレジメと資料を配布する。	
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)	
授業外の学習方法		授業で行われた内容を復習しておくこと。(週2時間程度) 試験対策の時間も確保すること。	
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目	
実務経験と教授内容			

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	保育原理	森下順子	2	必修	講義		
授業の概要		保育を展開していくときに保育者として大切な基礎・基本を学ぶ。例えば、保育の意義と理念、保育の思想と歴史的変遷、保育所保育指針における保育の基本、保育の目標と方法の基本、保育の現状と課題などについてである。保育に関する諸理論を学習し、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の観点から、望ましい保育の専門性や保育の本質について理解を深める。また幼児理解とともに、保護者支援と地域支援の重要性を学び、幅広い視野から保育ができる基礎を培う。						
授業の目標		保育の意義、保育所保育指針における保育の基本、保育内容と方法の基本について理解する。また、保育の歴史・思想・保育制度の変遷について学び、現在の保育の現状や課題にも関心を持ち、保育者としての基礎的な理解を深めることができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション・保育現場の日常を知る 保育の理念と概念			8	保育の基本III「発達過程・個別配慮の必要な子どもへの支援」エピソードを通して学ぶ			
2	子どもを取り巻く環境と保育の社会的意義 保育現場や家庭支援の現状			9	子育て支援と地域連携の必要性と対応 実践現場の事例と体験を通して考える			
3	保育の基本 I「養護と教育・倫理観と専門性」 事例を通して学ぶ			10	保育内容について(ねらい・内容・領域と方法) 事例を通して学ぶ			
4	保育の歴史と思想、歴史的変遷 I (諸外国) 学生が調べ発表する			11	乳幼児期にふさわしい保育内容について 事例を通して考える			
5	保育の歴史と思想、歴史的変遷 II (諸外国) 学生が調べ発表する			12	子ども理解「生活と遊びを通して総合的に行う保育」 理論と見学実習をつなげて考え発表する			
6	保育の歴史と思想、歴史的変遷III (日本) 学生が調べ発表する			13	計画・実践・記録・評価・改善の過程の重要性について 事例を通して考える			
7	保育の基本 II「環境を通して行う保育・発達過程に応じた保育」エピソードを通して学ぶ			14	保育の現状と課題について発表する まとめ			
成績評価方法		定期試験 70%, 課題レポート 20%, 授業への取り組み 10%						
教科書		『最新 保育原理—わかりやすく保育の本質に迫る—』保育出版社 上中 修 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2017年5月)						
参考書		『保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 汐見 稔幸他						
授業外の学習方法		授業の内容を、教科書や資料などで1週間に2時間程度の予習復習をする。子どもに関する時事問題を知る。半日程度、地域の子育て支援施設を見学する。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	教育制度論	木本毅	2	必修	講義		
授業の概要		西洋及び我が国の教育を歴史的・制度的に検証するとともに我が国近代公教育の成立過程とそのシステムを教育の法律主義に基づく教育行政の視点から学習指導要領を含めて多面的に検証・評価する。 古代社会から中世・近世を経て教育がどのように発展・進化して、近代公教育が誕生してきたか、とりわけ近代日本における法律主義に則る学習指導要領に基づく公教育のあり方についてさらに地域と連携する教育および学校安全を確保する教育のあり方等を俯瞰する。						
授業の目標		西洋及び我が国の近代公教育の制度と歴史および思想について俯瞰するとともに、わが国の明治以降の近代教育の成立成及び戦後の教育の法律主義に基づく教育行政を学習指導要領を含めて、その在り方と方法について理解する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	古代社会と教育の起源・誕生およびその内容。			8	教育行政の組織・機能と国と地方公共団体の関係。			
2	古代ギリシャ・ローマと中世・近世の教育の思想と制度。			9	教育の法律主義(教育に係る法令、法規、規則等)			
3	欧米の近代公教育制度の成立と発展及び思想。			10	学習指導要領(改訂と変遷の歴史及び課題等)			
4	我が国の教育の誕生と歴史及びその思想と制度。			11	平成 20・29 年度告示の学習指導要領とその課題。			
5	我が国近代公教育の制度と思想(明治から戦後)			12	国と地方の教育財政と社会教育の状況と課題。			
6	欧米と我が国における現在の教育の制度と課題。			13	特別支援教育の歴史と制度及び展望と課題。			
7	我が国教育行政の成立(理念と領域および制度)			14	就学前教育の制度と課題(幼稚園、保育・こども園)			
成績評価方法		定期試験 80%, 課題レポート・発表 10%, 授業への取り組み 10%						
教科書		『新教育制度論』 日本印刷出版 木本毅						
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説』各教科等編 東洋館出版社(2018年) 文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『文部科学法令要覧』ぎょうせい 文部科学法令研究会監修						
授業外の学習方法		復習および次回に行われる教科書の内容の予習。(週 2 時間程度) 指示された課題の調査研究、課題レポート作成の時間も確保すること。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態							
1	後期	児童家庭福祉	西原 弘	2	必修	講義							
授業の概要		子どもをとりまくわが国の児童家庭福祉の問題を概観し、子どもの権利擁護への理解を深める科目である。児童福祉の現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷、児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について学ぶと共に、児童家庭福祉の制度や実施体系、児童家庭福祉の現状と課題、児童家庭福祉の動向と展望についての理解を目指す。											
授業の目標		保育士は、児童福祉法にその法的根拠をもつ福祉専門職である。保育士として社会に貢献するうえで欠かすことのできない、児童家庭福祉の歴史・理念・制度、子どもと家族を取り巻く現代的課題について学ぶ。 ・児童家庭福祉についての基礎知識を習得する。 ・児童家庭福祉の現状と課題について理解する。 ・児童家庭福祉にかかわる専門職の重要性について理解する。											
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分									
1	オリエンテーション 保育士と児童家庭福祉			8	児童家庭福祉の制度・機関・実践（4） ・児童虐待防止								
2	子ども観と児童家庭福祉の歴史（1）			9	児童家庭福祉の制度・機関・実践（5） ・社会的養護								
3	子ども観と児童家庭福祉の歴史（2）			10	児童家庭福祉の制度・機関 ・実践（6） ・ひとり親家庭への支援／DV 防止								
4	現代の児童家庭福祉における基本理念			11	児童家庭福祉の制度・機関・実践（7） ・障害児福祉サービス								
5	児童家庭福祉の制度・機関・実践（1） ・乳幼児期の保育・教育			12	児童家庭福祉の制度・機関・実践（8） ・子どもの健全育成								
6	児童家庭福祉の制度・機関・実践（2） ・子育て支援サービス			13	児童家庭福祉の制度・機関・実践（9） ・少年非行等への対応 ・学校における子どもの人権問題への対応								
7	児童家庭福祉の制度・機関・実践（3） ・母子保健			14	まとめ 児童家庭福祉の動向と展望								
成績評価方法		定期試験 50%， 課題・小テスト等 20%， 受講態度・授業への参加度 30%											
教科書	『新・基礎からの社会福祉7 子ども家庭福祉 [第2版]』ミネルヴァ書房 (平成30年4月) 木村容子・有村大士編著												
参考書	各回の授業で資料を配布する。												
授業外の学習方法	各講義終了後、学習内容を復習し、次の講義への準備とする。（週2時間程度） 試験・小テスト対策、課題作成の時間も確保すること。												
免許・資格	保育士資格必修科目												
実務経験と教授内容	児童相談所勤務経験者が全ての回を担当												

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	教育方法論	岸田 正幸	2	必修	講義		
授業の概要		情報機器及び教材の活用を含む、教育の方法及び技術の修得を目指す科目である。教育方法論の概要を学ぶとともに、理論を教育実践に活用するための「方法・技術」を実践的に学ぶことで、理論と実践の融合を目指す。あわせて、視聴覚教材・メディアの活用、教育情報の分析、加工・処理、提示方法を身につけることを目的とする。						
授業の目標		教育方法の意義を理解するとともに、これからの中学生たちに求められる資質・能力を育成ための教育方法とは何か、またその授業を展開するための方法や技術を習得し、併せて情報機器活用の効果的な活用能力を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	教育方法の基礎的理論と実際			8	情報機器の活用① (効果的な情報機器の活用)			
2	授業の構成要素とよい授業			9	情報機器の活用② (情報機器活用の実践事例研究)			
3	よい授業の実践事例と指導方法 (主体的・対話的で深い学びとは)			10	情報機器の活用③ (情報機器活用能力の育成と情報モラル)			
4	指導と評価の一体化 (学習評価の基礎的な理解)			11	指導内容と学習指導案			
5	目的に応じた授業の実際① (ねらいを達成するための指導とは)			12	教材研究の重要性と教材研究の在り方			
6	目的に応じた授業の実際② (授業の構成要素とその役割)			13	優れた教育実践と事例研究			
7	目的に応じた授業の実際③ (話法・板書などの基礎的スキル)			14	模擬授業			
成績評価方法		定期試験 70%, ミニレポート 30%						
教科書		各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。						
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『新しい教育の方法と技術』ミネルヴァ書房(平成24年5月)篠原正典、宮寺晃夫						
授業外の学習方法		毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。(週2時間程度) 試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験のある担当者がすべての回を担当する。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	教育課程総論	岸田 正幸	2	必修	講義
授業の概要		カリキュラム・マネジメントを含む、教育課程の意義及び編成の方法を学ぶ科目である。教育基本法とその意義や関係法規、学習指導要領による教育課程編成の基準と関連事項及び教育の内容教育課程の編成・実施・評価・改善の過程について学習する。学習指導要領の変遷と新学習指導要領の理念・内容を理解し、様々な教育実践を通して教育課程との繋がりを考える。学習指導要領の変遷や、新学習指導要領の求めるものを考察することを通して教育課程の編成についての理解を深めるとともに、カリキュラム・マネジメント能力の育成を図る。				
授業の目標		教育課程の役割や機能、その編成方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの必要性を理解し、教育課程に関する基礎的な知識を習得する。				
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分	
1	教育活動における教育課程の意義と役割（関係法規を含む）				8	学校における教育課程編成の実際
2	社会に開かれた教育課程とその役割				9	教育課程編成の事例研究
3	時代の変化とともに求められてきた児童生徒像と学習指導要領の変遷				10	教育目標を踏まえたバックワードカリキュラムと指導の実際
4	学校における教育課程編成の意義				11	カリキュラム・マネジメントの理解と事例研究
5	幼稚園教育要領・小学校学習指導要領の性格と教育課程編成				12	カリキュラム評価の理解と実際
6	中学校・高等学校学習指導要領の性格と教育課程編成				13	現代的な諸課題と教育課程の開発
7	育てたい児童生徒像と教育課程及び指導計画				14	諸外国の教育課程の特色
成績評価方法		定期試験 70%, ミニレポート 30%				
教科書		各講義のテーマに応じた資料等をもとに講義する。 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省				
参考書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』東洋館出版社(2018年)文部科学省				
授業外の学習方法		毎回、次回に行われる授業内容に関する予習内容を指示する。（週2時間程度） 試験対策、ミニレポート作成の時間も確保すること。				
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目				
実務経験と教授内容		教員経験のある担当者がすべての回を担当する。				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	保育課程論	花岡 隆行	2	必修	講義		
授業の概要		幼児教育において、指導計画や日々の保育を展開するよりどころとなる保育課程を学ぶ科目である。保育課程の歴史および制度、課程編成の基本を学習する。また、乳幼児期の成長・発達についての理解を深め、保育課程の意義を考察する。和歌山県をはじめ、現代社会における幼児教育の課題や乳幼児への理解をより深めることをねらう。						
授業の目標		保育課程の歴史および制度を理解する。 保育課程編成の基本を理解する。 乳幼児期の成長・発達について理解する。 保育課程の意義を理解する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション			8	指導計画の実際（2） —短期の指導計画—			
2	保育課程の基礎理論			9	指導計画の実際（3） —各指導計画の関連—			
3	乳幼児期の保育・幼児教育と「計画」			10	指導計画の作成手順（1） —子どもの実態をとらえる—			
4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園保育・教育要領について			11	指導計画の作成手順（2） —「ねらい」と「内容」—			
5	保育課程の歴史（1）—明治期まで—			12	指導計画の作成手順（3） —環境構成と保育者の役割—			
6	保育課程の歴史（2）—大正期から現在まで—			13	指導計画と評価・保育における記録と評価			
7	指導計画の実際（1）—長期の指導計画—			14	まとめと総括			
成績評価方法		定期試験 50%, 課題・小テスト等 30%, 受講態度・授業への参加度 20%						
教科書		適宜、資料を配布する。						
参考書		『保育所保育指針〈平成29年告示〉』フレーベル館(2017年5月) 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館(2017年5月) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館 (2017年5月)						
授業外の学習方法		授業時に指示した資料等に目を通しておくこと。授業プリントを必ず見直し、理解を深めるとともに、疑問点を整理して次回の授業時に質問すること。小テスト対策も含めた週2時間程度の学習を行うこと。 試験対策、課題作成の時間も確保すること。						
免許・資格		保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	前期	保育内容総論	山下 悅子	1	必修	演習
授業の概要		幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づく、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学ぶ科目である。保育内容とは保育・幼児教育の特性を具体的に示すものである。保育内容総論では、今日の保育・幼児教育の現状をふまえて、俯瞰的視点で保育内容を捉える。保育・幼児教育における現状と課題、乳幼児の成長・発達、および具体的な生活への理解を深め、保育内容の意義を考察するとともに、保育・幼児教育の特性とその可能性への理解を目指す。テキストや視聴覚教材（映像）を通して、幼稚園教育要領、保育所保育指針における幼児教育の理念・基本、乳幼児期の発達をふまえた幼児教育の方法的特質、各領域におけるねらい及び内容の関連の理解を深めるとともに、ICT機器の活用方法を学び、幼児教育の指導計画を作成する能力を身につける。				
授業の目標		1)乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえた幼稚園・保育所・こども園等における指導の考え方を理解する。 2)乳幼児期の教育・保育における指導計画の考え方を理解し、幼児の発達の過程を見通した指導計画作成を理解する。				
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分		
1	1 イントロダクション 乳幼児期の教育・保育の目的と保育内容 幼稚園教育要領・保育所保育指針を通して、乳幼児期の教育・保育の目的について学ぶと共に、保育内容の意義について考える。			8	遊びと保育内容 遊びを中心とした教育・保育 乳幼児期の遊びを中心とした教育・保育の指導的特性について学ぶ	
2	2 乳幼児の園生活 園生活と保育内容の5領域 遊びを中心とした乳幼児の園生活の実際と、保育内容の5領域の考え方を学ぶ。			9	遊びと保育内容 「ねらい」と「内容」の設定 各領域の「ねらい」と「内容」について学ぶ	
3	3 0～1歳児の生活と保育内容 映像資料を通して、0～1歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。			10	遊びと保育内容 遊びを通した総合的な指導 映像資料や教材を基に、領域間の繋がりを考えた総合的な指導について考える。	
4	4 2～3歳児の生活と保育内容 映像資料を通して、2～3歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。			11	保育内容と計画 保育における計画作成の基礎 乳幼児期の保育・教育における計画の意義と構成、作成のポイントについて学ぶ。	
5	5 4～5歳児の生活と保育内容 映像資料を通して、4～5歳児の生活の成長・発達及び具体的な生活と保育内容について学ぶ。			12	保育内容と計画 保育内容の構成と教材研究、ICTの活用 具体的なテーマをもとに指導案を作成するとともに、資料を基に適切な教材やICT機器の活用法について考える。	
6	6 環境を通した幼児教育・保育 環境構成の在り方 環境を通しての幼児教育・保育の指導的特性と環境構成の考え方について学ぶ。			13	幼稚園・保育所・こども園での教育と小学校教育の接続 保幼小の接続に向けたアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの在り方の現状と課題について学ぶ。	
7	7 環境を通した幼児教育・保育 子どもの発達に応じた教育・保育の展開 映像資料や教材を基に、子どもの発達に応じた教育・保育の展開について学ぶ。			14	まとめ 授業全体を振り返り、今後の学修課題について考察する。	

成績評価方法	定期試験の成績 70%, 課題レポート 20%, 授業へ取り組む姿勢・態度 10%
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	『保育所保育指針（平成29年告示）』フレーベル館（2017年5月） 『幼稚園教育要領（平成29年告示）』フレーベル館（2017年5月） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』フレーベル館（2017年5月）
授業外の学習方法	週1時間程度、前回授業の復習を行うこと
免許・資格	幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目
実務経験と教授内容	幼稚園教諭経験者が全ての回を担当

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	図画工作Ⅰ	戸澁幸夫	1	選択	演習		
授業の概要		小学校学習指導要領(図画工作科)の目標・内容を学習指導するための必要な美術・図画工作の専門的技能・知識を高める科目である。造形遊びの活動、絵画表現、立体表現、工作など制作活動や鑑賞活動を通して材料や用具の扱い方など、指導者としての美術や図画工作の基礎基本を学ぶ。						
授業の目標		子ども達の心を育て、造形表現活動の楽しさを味わわせると共に造形表現の可能性を引き出し伸ばすことのできる教育者・保育者になるため、教育・保育現場で造形表現活動を展開するための基礎的技能・知識を身に付け、自ら創作を通して感性を磨く。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	授業ガイダンス			8	ざらざら画面に描くⅡ エスキース			
2	スクラッチ技法による表現			9	ざらざら画面に描くⅢ アクリル絵の具で着彩・完成・鑑賞			
3	アボリジナルアートに挑戦Ⅰ(点で遊ぶ)アボリジナルアートの特徴と図の意味を理解			10	モダンテクニック技法によるコラージュⅠ(模様紙の制作)			
4	アボリジナルアートに挑戦Ⅱ(点で遊ぶ) 制作・鑑賞			11	モダンテクニック技法によるコラージュⅡ(イメージに合わせて模様紙を貼る)			
5	アルミ缶による立体表現の制作方法や留意点を学ぶ			12	モダンテクニック技法によるコラージュⅢ完成・鑑賞			
6	アルミ缶による立体表現の制作・鑑賞			13	紙版画による表現Ⅰ いろんな材料を活用し版づくり			
7	ざらざら画面に描くⅠ ベニヤ板にジェッソと砂により下地作り			14	紙版画による表現Ⅱ 刷りの技法を学ぶ・完成・鑑賞			
成績評価方法		制作した作品評価 60% 演習カードの記述内容 20% 演習時の取り組み状況 20%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版(2018年) 文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)						
参考書		担当教員が作成した演習カード						
授業外の学習方法		次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。(週1時間程度)						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当し、各回具体的に発達段階に応じた指導・援助のあり方を説明する。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	図画工作Ⅱ	戸澁幸夫	1	選択	演習		
授業の概要		小学校学習指導要領(図画工作科)の目標・内容を学習指導するための必要な美術・図画工作の専門的技能・知識を高める科目である。図画工作科教育と学習指導要領の変遷、外国美術教育について学ぶ。また、図画工作科の意義や図工科教育を通して児童が豊かな感性を働かせ創造的に活動することにより、どのような資質・能力を引き出すことができるのかを具体的な実践事例から学ぶ。児童一人一人の良さや個性を尊重した学びを考える。						
授業の目標		子ども達の心を育て、造形表現活動の楽しさを味わわせると共に造形表現の可能性を引き出し伸ばすことのできる教育者・保育者になるため、教育・保育現場で造形表現活動を展開するための基礎的技能・知識を身につけ、自ら創作を通して感性を磨く。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	小学校学習指導要領(図画工作科)の改善点について考える			8	色鉛筆による風景画制作(下絵)			
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針の改善点について考える			9	色鉛筆による風景画制作(着彩・完成)制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ			
3	レッジョエミリアの幼児造形表現活動の様子を DVD で視聴し、その特徴や良さを話し合う			10	砂粘土制作(土作り)			
4	木片による立体表現の制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ			11	砂粘土による立体制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ			
5	コースターに猫イラストを描く制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ			12	一枚の紙による絵本づくり ストーリー展開と絵の構想をする			
6	ペットボトルの万華鏡づくりの制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ			13	一枚の紙による絵本づくり ペンとパステルで制作・完成			
7	線香画による表現の制作を通して、感性を働かせながら創造的に活動することや、個の資質・能力や個性の引き出し方を学ぶ			14	完成した一枚の紙による絵本を、読み聞かせによる発表会・講評会			
成績評価方法		制作した作品 60% 演習カードの記述内容 20% 演習時の取り組み状況 20%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版(2018年)文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)						
参考書		担当教員が作成した演習カード						
授業外の学習方法		次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。(週 1 時間程度)						
免許・資格		幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当し、各回具体的に発達段階に応じた指導・援助のあり方を説明する。						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	音楽 I	溝口希久生 桐山由香	1	選択	演習		
授業の概要		小学校学習指導要領（音楽科）の「表現」領域の学習指導に必要となる基礎的な知識・技能を高める科目である。小学校音楽科の表現領域（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」）の演習を通して、小学校学習指導要領の指導内容や【共通事項】を理解する。それを基盤として、小学校音楽科の授業を行う上で必要な基礎的な知識や技能を身に付けることで、豊かな指導のあり方を学ぶ。						
授業の目標		「表現」領域の演習を通して、「表現」（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」）の指導内容や【共通事項】を理解し、「表現」の授業を行う上で必要な基礎的な知識や技能を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション [授業の概要、成績評価の概要等、「表現」領域について]			8	器楽表現 (3) [リコーダーの音色や響きと技能との関わり]			
2	歌唱表現 (1) [「歌唱」の意義、発声や声を合わせて歌う技能、拍・拍子・リズム]			9	器楽表現 (4) [リコーダーによるアンサンブル①、リズム・旋律・音の重なり]			
3	歌唱表現 (2) [歌唱指導の方法、旋律・フレーズ・呼びかけと答え]			10	器楽表現 (5) [リコーダーによるアンサンブル②、反復・変化・呼びかけと答え・音楽の縦と横の関係]			
4	歌唱表現 (3) [歌唱教材研究①、旋律・反復・変化]			11	器楽表現 (6) [日本伝統音楽の楽器、音色・リズム]			
5	歌唱表現 (4) [歌唱教材研究②、旋律・音の重なり]			12	「音楽づくり」(1) [「音楽づくり」の意義、即興的な表現、音色・拍・リズム]			
6	器楽表現 (1) [器楽の意義、打楽器の奏法と指導法、音色や響きと技能との関わり、拍・拍子・リズム]			13	「音楽づくり」(2) [指導法、旋律・反復・変化・強弱・速度]			
7	器楽表現 (2) [打楽器によるアンサンブル、リズム・リズムパターン・音の重なり]			14	「音楽づくり」(3) [いろいろな響きや組み合わせ]			
成績評価方法		定期試験 40%, 歌唱・器楽・「音楽づくり」の基礎技能 40%, 授業へ取り組む姿勢 20%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』教育芸術社(2018年)文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)						
参考書		授業時、適時資料を配布する。						
授業外の学習方法		その回に行われた内容を十分復習して練習し、次回の内容を予習しておくこと。(週 2 時間程度)						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	音楽Ⅱ	溝口希久生 桐山由香	1	選択	演習		
授業の概要		小学校学習指導要領・音楽科の内容「表現」と「鑑賞」領域の学習指導に必要な知識や技能を深める科目である。「音楽Ⅰ」の学修を踏まえ、小学校音楽科の多様な教材を用いた表現活動（「歌唱」「器楽」「音楽づくり」と「鑑賞」の演習を通して、小学校学習指導要領・音楽科の「表現」と「鑑賞」領域の指導内容や〔共通事項〕を理解する。それを基盤として、小学校音楽科の授業の指導を行う上で必要な知識や技能を身に付けることで、多様な教材を活用した豊かな指導のあり方を学ぶ。						
授業の目標		音楽の表現と鑑賞の演習を通して、表現や鑑賞に関する知識や技能を理解し、音楽の指導を行う上で必要な基礎的な知識や技能を身につけることができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション（授業の概要、成績評価等） 歌唱の活動（1）わらべうたの特徴（音階・旋律）			8	器楽の活動（4） 器楽教材の分析（曲想）と指揮の方法			
2	歌唱の活動（2） わらべうたの集団遊び（拍・拍子・問答）、歌の発達			9	器楽の活動（5） 日本伝統音楽の構成要素と楽器の技能			
3	歌唱の活動（3） わらべうた遊びの紹介、手遊びうた等			10	「音楽づくり」の活動（1） 音遊び、様々な音素材による表現			
4	歌唱の活動（4） 歌唱教材の分析（音の重なり・和音の響き）と指導			11	「音楽づくり」の活動（2） 音楽の構成要素や〔共通事項〕との関連			
5	器楽の活動（1） 器楽教材の分析（音色・リズム・旋律）と楽器の奏法			12	「音楽づくり」の活動（3） 様々な表現媒体による表現			
6	器楽の活動（2） 器楽教材の分析（リズム・強弱・速度）と指導の方法			13	鑑賞の活動（1） 鑑賞活動の特徴、〔共通事項〕との関連、紹介文			
7	器楽の活動（3） 器楽教材の分析（音の重なり・形式）と合奏の方法			14	鑑賞の活動（2） 「図形楽譜づくり」による鑑賞活動			
成績評価方法		課題 30%, 表現・鑑賞の技能 40%, 授業へ取り組む姿勢・態度 30%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』教育芸術社(2018年)文部科学省 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月) 『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)						
参考書		授業時、適時資料を配布する。 『小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイナー』廣済堂あかつき (平成30年5月)						
授業外の学習方法		その回に行われた内容を十分復習して練習し、次回の内容を予習しておくこと（週2時間程度）。						
免許・資格		幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	生活 I	秋吉博之	1	選択	演習		
授業の概要		小学校生活では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、学校、家庭及び地域の生活に関する内容について、理解を深める。次いで、学校生活に関わる活動や地域に関わる活動を通して、実践的な技能を身につける。						
授業の目標		小学校学習指導要領を踏まえて、生活科の授業実践のための知識と基礎的な技術を身につける。すなわち生活科の目標、内容、評価を理解し、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」について、授業構成や指導の実際に関する理解を深める。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション			8	公共物や公共施設を利用する活動			
2	小学校学習指導要領(生活)			9	公共物や公共施設を利用する活動の実際			
3	学校生活に関わる活動			10	身近な自然の観察			
4	学校生活に関わる活動の実際			11	身近な自然の観察の実際(校内)			
5	家庭生活に関わる活動			12	身近な自然の観察の実際(校外)			
6	家庭生活に関わる活動の実際			13	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動			
7	地域に関わる活動			14	活動のまとめ			
成績評価方法		定期試験 50% 課題レポート(3,000字程度) 40% 授業への取り組み 10%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』日本文教出版(2018年)文部科学省『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月)						
参考書		小学校生活検定教科書						
授業外の学習方法		各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回 30 分程度) グループ活動の実施計画を立て、予行を行うこと。(毎回 30 分程度) 各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回 30 分程度)						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	生活Ⅱ	秋吉博之	1	選択	演習		
授業の概要		小学校生活では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することが求められている。これらを踏まえて、身近な人々・社会及び自然と関わる活動、そして自分自身の生活や成長に関することについて理解を深める。次いで、公共施設の利用や飼育・栽培などの活動を通して、実践的な技能を身につける。						
授業の目標		小学校学習指導要領を踏まえて、生活科の授業実践のための知識と基礎的な技術をいっそう身につける。すなわち生活科の目標、内容、評価を理解し、「身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」について、授業構成や指導の実際に関して理解を深める。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション			8	植物を育てる活動の実際③収穫			
2	小学校学習指導要領(生活)			9	自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動			
3	身近な自然を利用して遊ぶ活動			10	自分自身の生活や成長を振り返る活動			
4	身近な自然を利用して遊ぶ活動の実際			11	自分自身の生活や成長を振り返る活動の実際①発表会前半			
5	植物を育てる活動			12	自分自身の生活や成長を振り返る活動の実際②発表会後半			
6	植物を育てる活動の実際①種蒔			13	自分自身の生活や成長を振り返る活動の実際③発表のまとめ			
7	植物を育てる活動の実際②観察			14	活動のまとめ、今後の課題			
成績評価方法		定期試験 50% 課題レポート(3,000字程度) 40% 授業への取り組み 10%						
教科書		『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 生活編』日本文教出版(2018年)文部科学省 『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館(2018年3月)						
参考書		小学校生活検定教科書						
授業外の学習方法		各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回30分程度) グループ活動の実施計画を立て、予行を行うこと。(毎回30分程度) 各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回30分程度)						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	子どもと環境	秋吉博之	1	選択	演習		
授業の概要		幼稚園教育要領の領域「環境」には、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うことが示されている。このような児童の育ちを理解し、屋内外での活動から環境に対する理解を深め、受講者が身近な環境との関わりの中で得た事例について発表をする。これらを通して、「環境」に関わる保育の基本的な知識と技能を身につける。						
授業の目標		保育活動の理解を深め、教育現場で実践していくための基礎的な力量を育成する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	領域「環境」のねらいと意義			8	身近な自然環境(1)植物採集、樹木・葉遊び			
2	領域「環境」の内容と活動のあり方			9	身近な自然環境(2)動物との出会い			
3	環境に対する児童の認識(1)探究心			10	身近な自然環境(3)石はどうしてまるい			
4	環境に対する児童の認識(2)ものやひとの認識			11	身近な自然環境(4)虹はどうしてできる			
5	環境に関する児童の活動や遊び			12	保育内容「環境」の保育計画			
6	園外保育における領域「環境」の指導のあり方			13	保育園・幼稚園の環境構成と評価			
7	物的環境としての園具、遊具、素材			14	まとめ、授業の評価			
成績評価方法		定期試験 40% 課題レポート(3,000字程度) 40% 授業への取り組み 20%						
教科書		『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館(2018年3月)文部科学省 『保育所保育指針解説<平成30年3月>』フレーベル館(2018年3月)厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館 (2018年3月)内閣府・文部科学省・厚生労働省						
参考書		適宜、資料を紹介する。						
授業外の学習方法		各回に授業で指示する教科書の箇所を事前に熟読し、予習をしておくこと。(毎回30分程度) グループ活動の実施計画を立て、予行を行うこと。(毎回30分程度) 各回に授業で指示する内容について復習をしておくこと。(毎回30分程度)						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態
1	後期	子どもの言葉	小林康宏	1	選択	演習
授業の概要		言葉に対する感覚や言葉で表現する力の形成に関する理解を深める科目である。幼児が自分の気持ちを言葉で表現する楽しみを感じたり、伝え合う喜びを味わったり、絵本や物語などに親しみ、教師や友達と心を通わせたりするために、幼児の言葉の発達への理解や言語活動への体験的な理解を深め、教師として必要な基礎的知識を獲得することを目指す。				
授業の目標		領域「言葉」の内容を理解すると共に、幼児が言葉を獲得していく過程を発達段階に即して理解することができる。また、絵本や紙芝居など、幼児の言葉を育てるための基礎的な知識・技能を身に付けることができる。				
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分	
1	領域「言葉」とは何か:領域の内容を理解する。				8	信頼と言葉:信頼を生む言葉を体験し理解する。
2	言葉と環境:言葉の発達に必要な環境を知る。				9	思いと言葉:思いを伝える言葉を体験し理解する。
3	発達の理解:言葉の発達の特性と理解の仕方を知る。				10	感情体験と言葉:感情体験と言葉の関係を知る。
4	保育の実際:保育現場での「言葉」の育て方を知る。				11	絵本の読み聞かせの方法:基本的な方法を知る。
5	実践上の留意点:実践する上での課題を知る。				12	読み聞かせ体験:絵本の読み聞かせをし合う。
6	「劇的表現」と言葉:「劇的表現」を体験する。				13	紙芝居体験の体験:紙芝居の方法を知り行う。
7	「ごっこ遊び」と言葉:「ごっこ遊び」を体験する。				14	文字と言葉:幼児と文字との関係について知る。
成績評価方法		定期試験 20%、提出物 40%、授業への取り組み 40%				
教科書		『保育内容「言葉」(最新保育講座)』ミネルヴァ書房 秋田喜代美 他編 『領域 言葉(事例で学ぶ保育内容)』萌文書林 無藤隆 監修、宮里暁美 編集				
参考書		『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館(2018年3月)文部科学省 『保育所保育指針解説<平成30年3月>』フレーベル館(2018年3月)厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館(2018年3月)内閣府・文部科学省・厚生労働省				
授業外の学習方法		1週間に1時間程度の予習・復習等を行うこと。				
免許・資格		保育士資格選択必修科目				
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当				

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	子どもの表現 I	戸澁幸夫 桐山由香	1	選択	演習		
授業の概要		幼児の表現活動の基礎を学ぶ科目である。音楽表現・造形表現領域を中心に、子どもの表現活動の内容と、発達、保育現場での表現活動の、基礎的理論と実際について、演習を通して体感的に学ぶ。						
授業の目標		幼児の表現活動の基礎を学ぶ科目である。音楽表現・造形表現領域を中心に、子どもの表現活動の内容と、発達、保育現場での表現活動の、基礎的理論と実際について、演習を通して体感的に学ぶ。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	オリエンテーション:授業概要の説明 (戸澁幸夫・桐山由香)			8	パスター・ネックレスを作つて飾ろう 造形表現のまとめ(戸澁幸夫)			
2	乳幼児の造形表現活動の指導事例をビデオで鑑賞し、 環境作り、展開方法を学ぶ(戸澁幸夫)			9	音楽あそび(1)身体あそびと音楽① 音楽の諸要素に 合わせた身体表現(桐山由香)			
3	乳幼児の造形的表現活動の発達と特徴について学ぶ (戸澁幸夫)			10	音楽あそび(2)身体あそびと音楽② 歌に合わせた身 体表現(桐山由香)			
4	第4回以降は具体的に模擬授業を通して、造形表現活 動を体験し援助・指導の方法を学ぶ			11	音楽あそび(3)ことばと音楽① オノマトペと音楽 (桐山由香)			
5	パクパク人形を作つて遊ぼう(戸澁幸夫)			12	音楽あそび(4)ことばと音楽② 絵本と音楽(桐山由香)			
6	オリジナル紙飛行機を作つて遊ぼう(戸澁幸夫)			13	音楽あそび(5)身の回りの音さがし① 音素材につい て(桐山由香)			
7	シャボン玉で遊んで形を写そう(戸澁幸夫)			14	音楽あそび(6)身の回りの音さがし② キャンバス音さ がし、音楽表現のまとめ(桐山由香)			
成績評価方法		<p>【造形表現】</p> <p>(1) 制作した作品 30%</p> <p>(2) 演習カードの記述内容 10%</p> <p>【音楽表現】</p> <p>(3) レポート提出 30%</p> <p>【全体】</p> <p>授業への取り組み 30%</p>						
教科書		<p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』東洋館出版社(2018年2月)文部科学省</p> <p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編』日本文教出版(2018年)文部科学省</p> <p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』教育芸術社(2018年)文部科学省</p> <p>『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)</p> <p>『保育所保育指針(平成29年告示)』フレーベル館(2017年5月)</p>						
参考書		担当教員が作成した演習カード 適宜、資料配布、紹介する。						
授業外の学習方法		<p>【造形表現】次回演習内容のアイディアを考える。演習後演習カードのまとめをする。</p> <p>【音楽表現】各回で履修した音楽表現を復習し、次回発表する。</p> <p>各回1時間程度の復習を行うこと。</p>						
免許・資格		保育士資格選択必修科目						
実務経験と教授内容								

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態					
1	前期	鍵盤演奏入門	溝口希久生	1	選択	演習					
授業の概要		鍵盤楽器演奏初級者を対象とし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭に必要な基礎的・基本的な演奏技能習得をねらいとする。基礎的な音楽の構造を学び、読譜力を身につけながら、保育所・幼稚園・小学校において子どもの音楽表現が引き出せるようなピアノの基礎的な技能を身につける。学生の課題や実態に適した教材の選択と指導を行う。									
授業の目標		保育士に必要な基礎的・基本的なピアノ演奏技能を習得する。読譜力、基礎理論を身に付けて、ピアノで基礎的な音楽表現ができる。保育士に必要な弾き歌い、伴奏の基礎的なピアノ演奏技能および演奏にかかる基礎理論を身に付ける。									
回	授業のテーマ及び内容				各回 100 分						
1	オリエンテーション (授業の進め方、授業評価の説明、楽器の扱い等、鍵盤と手の位置)		8	曲想の違いを意識した演奏 ・強弱記号、速度標語、発想標語							
2	順次進行と跳躍進行の旋律 ・楽譜の理解、運指		9	ハ長調の旋律の移調による演奏 ・音階、指くぐりと指こえ							
3	音の高低に気をつけた両手演奏 ・音符と休符		10	主要三和音と旋律の重なりを意識した演奏 ・コードネーム (三和音) の理解							
4	主旋律と低音の重なりを意識した演奏 ・リズムと拍子、両手の運指		11	属七の和音と旋律の重なりを意識した演奏 ・セブンスコードの理解							
5	分割されたリズムを意識した演奏 ・八分音符		12	分散和音と旋律の重なりを意識した演奏 ・分散和音奏							
6	反復を意識した演奏 ・省略記号、指の移動		13	付点のリズムのある演奏 ・付点四分音符							
7	3拍子の感じを意識した演奏 ・指の移動		14	まとめと振り返り 1～13回の授業を総括する。							
成績評価方法		定期試験 (課題曲・自由曲) 60%, 課題曲の練習や授業へ取り組む姿勢 40%									
教科書		『標準バイエル教則本 全音ピアノライブラリー』全音楽譜出版社出版部(2008年12月) 『こどものうた100』チャイルド本社(1982年4月)小林 美実									
参考書		随時、資料を配布する。									
授業外の学習方法		ピアノ演奏は、日々の練習の積み上げが必要となる。その回の授業の内容について十分な復習の練習と次回の授業に向けての予習を週2時間程度すること。									
免許・資格		保育士資格必修科目									
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当									

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	前期	発達心理学	桑原義登	2	必修	講義		
授業の概要		胎生期、乳児期、幼児期、児童期、青年期における人間の成長や発達の過程で生じる課題について発達心理学の視点からとらえる授業である。心身の発達の特徴や、発達の基礎的理論及び研究方法を、最新の研究成果の知見を交えて学ぶ。知的機能、社会性、パーソナリティの発達に焦点を当てながら、その特徴や発達障害、発達に影響を及ぼす要因について考えることで、子ども理解の基礎を培う。						
授業の目標		生涯発達の視点から、各発達段階における心身の発達の特徴や発達理論を理解してもらう。発達心理学の知見により、保育や教育現場での発達を踏まえた学習支援及び発達課題や問題行動に対しての基礎となる考え方を理解する。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	発達心理学とは			8	乳児期の運動・社会性・言語の発達			
2	発達を促す要因 (素質要因と環境要因)			9	幼児期の各領域における発達と学び			
3	発達理論について			10	児童期の教科学習における発達と学び			
4	ライフサイクルを通した発達課題について			11	反抗期の意味と思春期以降の発達課題			
5	学習と学習理論について			12	発達心理学の視点からの生徒指導上の問題行動			
6	動機付けと評価について			13	発達心理学の視点からの児童虐待と愛着障害			
7	胎児期と周産期のリスクと発達への影響			14	発達期に出現する障害児の理解			
成績評価方法		期末試験 70%、授業の最後に行う小レポート 20%、授業への取り組み 10%						
教科書		『0歳～12歳児の発達と学び』北大路書房(2013年5月)清水益治、森敏昭編著						
参考書		なし						
授業外の学習方法		次回に行われる教科書の内容をよく読んでおくことと、各年齢における子どもの行動の特徴を観察しておくこと(週2時間程度)。 試験対策の時間も確保すること。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		児童相談所心理専門職と臨床心理士としてのスクールカウンセラー等の経験者が全ての回を担当						

配当年次	開講期	科目名	担当者	単位	卒業必・選	授業形態		
1	後期	教育心理学	村上凡子	1	必修	演習		
授業の概要		教育心理学は、幼児、児童及び生徒といった学習者の発達的特性を踏まえた学習支援について心理学が過去から蓄積してきた基礎的な知識や理論を理解するための科目である。各時期の発達的特性に応じた保育、教育のあり方を学ぶ。主体的な学習を学習者自らが進めていくための学習支援を実践できるよう、認知、行動両面からの学習、記憶、動機づけ、学級集団のしくみ、学習評価等に関する代表的な理論を発達の特徴と関連付けて取り上げる。これらは、保育、教育のすべての領域、教科等に共通して身につけておくべき事項である。						
授業の目標		到達目標は 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的な基礎的事項を実際の保育・教育場面と関連付けて理解していること、 2) 子どもの主体的学習を支えるための動機づけ、学級集団のしくみと集団づくり、学習評価の在り方に関する教育心理学の理論を発達の特徴と関連付けて理解していること、 3) 多様な子どもの心身の発達的特徴を踏まえて、地域の教育的課題と関連付けて、主体的な学習活動を支えるための必要な指導の基礎となる理論を理解していること。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分				
1	教育心理学を学ぶ意義と教師の役割—地域の教育課題を踏まえて—			8	教師期待効果と望ましい教授活動の在り方について検討—ロールプレイングの学びを通して—			
2	環境との相互作用としての自己、性格の発達過程			9	学習支援ニーズと学習理論との関連の検討—適正処遇交互作用理論を踏まえて—			
3	基本的生活習慣、社会性、人間関係の発達及び学習過程と支援			10	集団づくりの基礎理論による学級経営計画の作成と検討—PM理論に焦点を当てて—			
4	言語、数量認識等の認知機能の発達及び学習過程			11	学習評価に関する基礎理論と授業・保育設計の基本			
5	行動論からみた学習過程とその支援方法についての発表・検討—条件付けの理論、プログラム学習—			12	事例検討を通した多様な学習支援ニーズとつまづきへの支援（グループ協同学習）			
6	認知論からみた学習過程とその支援方法についての発表・検討—記憶の仕組みを踏まえて—			13	主体的な学習活動を成立させるための授業記録観察演習			
7	学習の動機づけの理論と主体的な学習活動との関連			14	主体的な学習の創造における発達・学習の支援者としての教師の在り方についての討論			
成績評価方法		定期試験 70%、小テスト 15%、発表 10%、予習復習課題 5%						
教科書		適宜資料を配布する。						
参考書		『授業成立入門』明治図書（昭和60年6月）吉本均著 『新訂 教授・学習過程論』日本放送出版協会（平成14年4月） 大島純・野島久雄・波多野謙余夫（編著）						
授業外の学習方法		1週間に1時間程度の予習復習を行う。その内容は、毎回の要点や感想をノートにまとめ、翌回に向けて配布される予習資料に関して疑問点や意見をノートに書くことである。						
免許・資格		小学校教諭免許必修科目、幼稚園教諭免許必修科目、保育士資格必修科目						
実務経験と教授内容		教員経験者が全ての回を担当						

和歌山信愛大学
教育学部 子ども教育学科

〒640-8022 和歌山市住吉町1番地
TEL :073-488-3120(教学センター)
Mail:kyogaku-c@shinai-u.ac.jp

学籍番号

氏名